

第3回 石川県書写書道教育研究大会

[大会テーマ]

『基礎・基本をふまえて

豊かな心を育てる書写書道教育』

－楽しく学べる授業を目指して－

日時 平成4年11月25日(水) 10:00～16:00

会場 金沢市立鳴和中学校

主催 石川県書写書道教育連盟

後援 石川県教育委員会

金沢市教育委員会

石川県私立幼稚園協会

目 次

1. 挨拶・祝辞

石川県書写書道教育研究連盟会長
第3回石川県書写書道教育研究大会会長 藤 則 雄 1

石川県教育委員会教育長 肥 田 保 久 2

金沢市教育委員会教育長 石 原 多 賀 子 3

2. 第3回石川県書写書道教育研究大会要項 4

3. 公開授業学習指導案

金沢市立鳴和中学校 教諭 八 田 和 幸 6

4. 研究誌上発表

小松市立向本折小学校 校長 山 本 穆 子 9

金沢市立中央小学校 教諭 板 本 爽 見 14

七尾市立天神山小学校 教諭 川 崎 律 子 20

石川県立金沢商業高等学校 教諭 永 江 芳 教 26

石川県立水産高等学校 教諭 鱒 喜 代 子 41

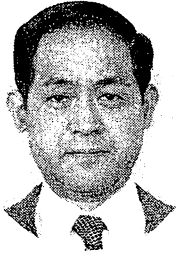
金沢大学教育学部 四年 荒 木 理 恵 子 44

金沢大学教育学部 三年 角 島 幸 子 出 雲 崎 貴 子
黒 橋 香 織 唐 津 清 美 51
塩 田 由 香

5. 第3回石川県書写書道教育研究大会経過報告 59

6. 第3回石川県書写書道教育研究大会役員一覧 61

7. 石川県書写書道教育連盟規約 65



ご 挨拶

石川県書写書道教育連盟会長
第3回石川県書写書道教育研究大会長
藤 貝 弘 佳

このたび、石川県の各地から多数の研究者をお迎えして、第3回石川県書写書道教育研究大会を開催することになりましたことは、誠に喜ばしい限りであり、ご参加いただいた皆様と共に、心からお喜び申し上げます。

幼稚園から大学に至るまでの、各組織を有機的に連合化した本教育連盟を、全国に先がけて結成して以来約3年を経、その研究活動は軌道にのり、組織も次第に拡大されつつあります。殊に、授業研究を中心に据えて、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・特殊教育諸学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努め、会員相互の親睦にも心を致してきたところであります。

今回も、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」を本大会の主テーマに据え、これまでの研究を更に進展させるべく、金沢において開催することとなりました。

参加者各位には、常日頃、研鑽されてこられたその結集とも言うべき成果を、十二分に発揮され、相互の討論を踏まえて、更に発展されんことを期待するものであります。

最後に、本研究大会の開催のために、今日に至るまで日夜研鑽されてこられた発表者の方、本大会を成功裡に導くために会場の設営等にご盡力を賜った関係各位に、心から敬意と感謝の意を表するものであります。なかんづく、日本における書写書道教育の第一人者である前文部省初等中等教育局の視学官、久米公千葉大学教授には、ご遠路をはるばる本研究大会の講演と私共への指導のためにご来沢いただき、心からの感謝を申し上げます。次第であります。

石川県書写書道教育連盟が、会員諸氏のご努力とご協力とによって、今後ますます発展することを、そして、会員各位のご健勝と研究のご進展とを祈念して、第3回研究大会開催に当たってのご挨拶といたします。

(金沢大学総合大学院博士課程 教授)



祝

辞

石川県教育委員会教育長
肥田 保久

第3回の石川県書写書道教育研究大会が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

幼稚園から、大学までの6校種を包み込んだ大きな組織に育てられた関係者のなみなみならぬ御苦勞に、深甚なる敬意を表するものであります。

周知のとおり、新学習指導要領においては、正しい整った文字の指導が強化され、書写が国語教育の重要な柱となっております。

文字を正しく美しく書く指導は、一字をもゆるがせにしない態度を養うことであり、情操を培うことにもつながります。

「物が豊かになってから、心の豊かさが失われた」といわれて久しいものがある中で、ゆとりや、心の豊かさをどうやって取り戻すのかということが、学校教育における現在の課題ともいえます。

文字に関しても、効率化、合理化が重視され、加えて機器の普及により、ますます文字を書くことの意義が見失われつつあります。

そうした中で、祖先から受け継がれた日本独特の言葉、そして、磨かれてきた文章表現や美しい文字表現を次代に後継していくことは、我々の責務であります。

このたびの教育課程の改定においても「21世紀にむかって国際社会に生きる日本人を育成する」という観点から、「基礎・基本の重視」「国際理解と我が国の文化と伝統の尊重」等があげられております。

小学校・中学校では、授業の一貫性と共に、芸術性よりも基本である文字指導を重視し、また、毛筆が硬筆の基礎であることを打ち出して、日本語の文字の成り立ちを大切にしております。高等学校では、それらに加えて文字の美、芸術性を掲げております。つまり、文化と伝統の尊重という意味で書写書道教育が見直されているといえます。

今後とも、書写書道教育を通して、一人でも多くの「心豊かな児童生徒」が育つよう、この会の一層の成果を祈念いたしますとともに、今日までの関係者の御苦勞に深く敬意を表し、祝辞といたします。



祝

辞

金沢市教育委員会教育長
石原 多賀子

第3回石川県書写書道教育研究大会の開催を心からお祝い申し上げます。

大会の研究テーマとして、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」が掲げられております。児童・生徒の間に見られるいわゆる丸文字や粗雑な文字、あるいは点画の乱れなどがますます問題視されています。美しい文字が尊重されるという伝統的な考えが通用しなくなって、「文字は読めさえすればよい」といった風潮がないでもありません。こういった現状を考えますと、本会の掲げる「基礎・基本の定着」は、まさしく時宜を得たものであり、社会の要請にも応えるものといえます。そして、美しく整った文字を書こうと心掛けることは、単に文字の指導にとどまらず、言語を愛する心を育て、「豊かな心を育てる」ことにつながります。

幸い、本年度より、小学校におきまして、新しい学習指導要領が全面実施となりました。また、来年度からは、中学校においても全面実施されます。今回の改定において、書写書道教育の一環性と、時数増による指導の重点化が図られています。それにそって、既に充実した取り組みが、それぞれの教育現場において行われていることと思います。

しかしながら、次のような問題点も指摘されています。児童・生徒の文字を見ると、書写の指導の時には注意深さが見られるのに、日常生活では乱雑になったり、丸文字を使用したりするという傾向です。これは、雑誌やテレビなどのマスコミの影響もありましょうが、なんとかして解決を図りたいことでもあります。おそらく、今大会のサブテーマとして「日常の書写力を高める授業を目指して」を掲げたのは、そのような点を十分考慮されたからなのでしょう。書写の授業にとどまらず、日常使われる文字までを視野にいたした研究の大切さは、多くの研究者の指摘するところでもあります。その意味におきましても、今大会が意義あるものとなり、多くの成果を上げられることを心から期待しております。

最後に、本研究会の開催のために準備にあたられた関係の方々、また、研究授業や研究発表のために実践を積んでこられた各先生方に、心から敬意を表します。

書写教育の大切さが叫ばれている今日、石川県書写書道教育連盟が、今後ますます充実・発展され、時代の要請にこたえた研究・実践を行っていかれることをお祈りして、お祝いのことばといたします。

第3回 石川県書写書道教育研究大会

1. 研究大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
— 日常の書道力をたかめる授業を目指して —

2. 期日 平成4年11月25日(水)

3. 会場 金沢市立鳴和中学校

4. 主催 石川県書写書道教育連盟

5. 後援 石川県教育委員会・金沢市教育委員会・石川県市立幼稚園協会

6. 記念講演(14:45~15:45)

演題 「学習指導の最適化のために」

講師 久米 公 先生(千葉大学教授・前文部省視子官)

7. 日程

10:00	:45	11:35	:40	12:20	13:20	14:20	:45	15:45
受付	公開授業	研究協議会1	昼食	研究協議会2	全体会	記念講演		

8. 公開授業 中学校(10:45～11:35)

校種	学年	区分	單元名	指導者
中学校	1	毛筆	「初秋」(行書)	八田和幸(金沢市立鳴和中学校)

9. 研究協議会

	助言者	司会者	記録者
研究協議会1 11:40 ～12:20	県教委学校指導主事 清水 實 津幡町立中条小学校 校長 森川 登夫	金沢市立北鳴中学校 教頭 松本 隆久	金沢市立鳴和中学校 教諭 岡谷 彩子 金沢市立城南中学校 講師 宮崎 智子
研究協議会2 13:20 ～14:20	金沢市立馬場小学校 校長 河本 隆成 金沢市立中央小学校 教諭 板本 爽見	中島町立瀬嵐小学校 校長 松本 勝雄	石川県立水産高等学校 教諭 懈 喜代子 小松市立安宅小学校 教諭 板橋 法子

10. 全体会(14:30～14:45)

- 会長挨拶
- 祝辞(石川県教育委員会・金沢市教育委員会)
- 研究協議会2
- 研究協議会報告(中学校)
- 講評

中学校国語科書写(硬・毛)学習指導案

生徒 金沢市立鳴和中学校 第1学年

男子19名 女子17名 計36名

指導者 教諭 八田和幸

1 単元名 行書の基本

2 単元設定の理由

中学校学習指導要領（〔第1学年〕〔言語事項〕(3)イ）に「漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。」と示されている。前段の“注意して書き”の部分は、“ていねいに、しっかりと書き”に置き換えることも可能かと思う。そして、とめ、はね、はらいをしっかりと行う楷書の指導を1学期から2学期半ばにかけて行ってきたが、いまだに日常のノートに転化するには到っていない。

作文、生活の記録等で、文字を書かせようとすると、生徒の口からはすぐ「面倒くさい」とか「邪魔くさい」とかいう言葉がでてくる。実際、文字を書くことが苦手で、また書いたとしても、粗雑になりがちな生徒が目立つ。

そこで、基本的な行書の書き方を指導することによって、漢字を合理的に読みやすく、速く書く技能を習得させ①、文字を書くことへの抵抗感を減らし、あらためて、ていねいに書く姿勢も育てる②、この2つのことをねらいとして、この単元を設定した。

3 単元の目標

- ① 楷書と比較しながら、行書の特徴を理解させる。
- ② 行書の基本的な筆使いを習得させる。
- ③ 易しい行書を日常の学習活動に転化できるようにさせる。

4 指導計画（8時間）

（第1～3時）「大志」を題材に、点画の丸み・形や方向の変化・連続を理解させ、類似の文字を練習し、日常の書写に役立たせる。

（第4,5時）「初秋」を題材に、点画の省略・筆順の変化を理解させ、類似の文字を練習し、日常の書写に役立たせる。 （本時は第4時）

（第6,7時）「深山紅葉」を題材に、既習の行書をまとめさせる。

5 本時の学習指導

（1）教材 「初秋」 （光村図書 中学書写1年）

（2）目標 ◎点画の省略・筆順の変化を理解させて、書かせる。

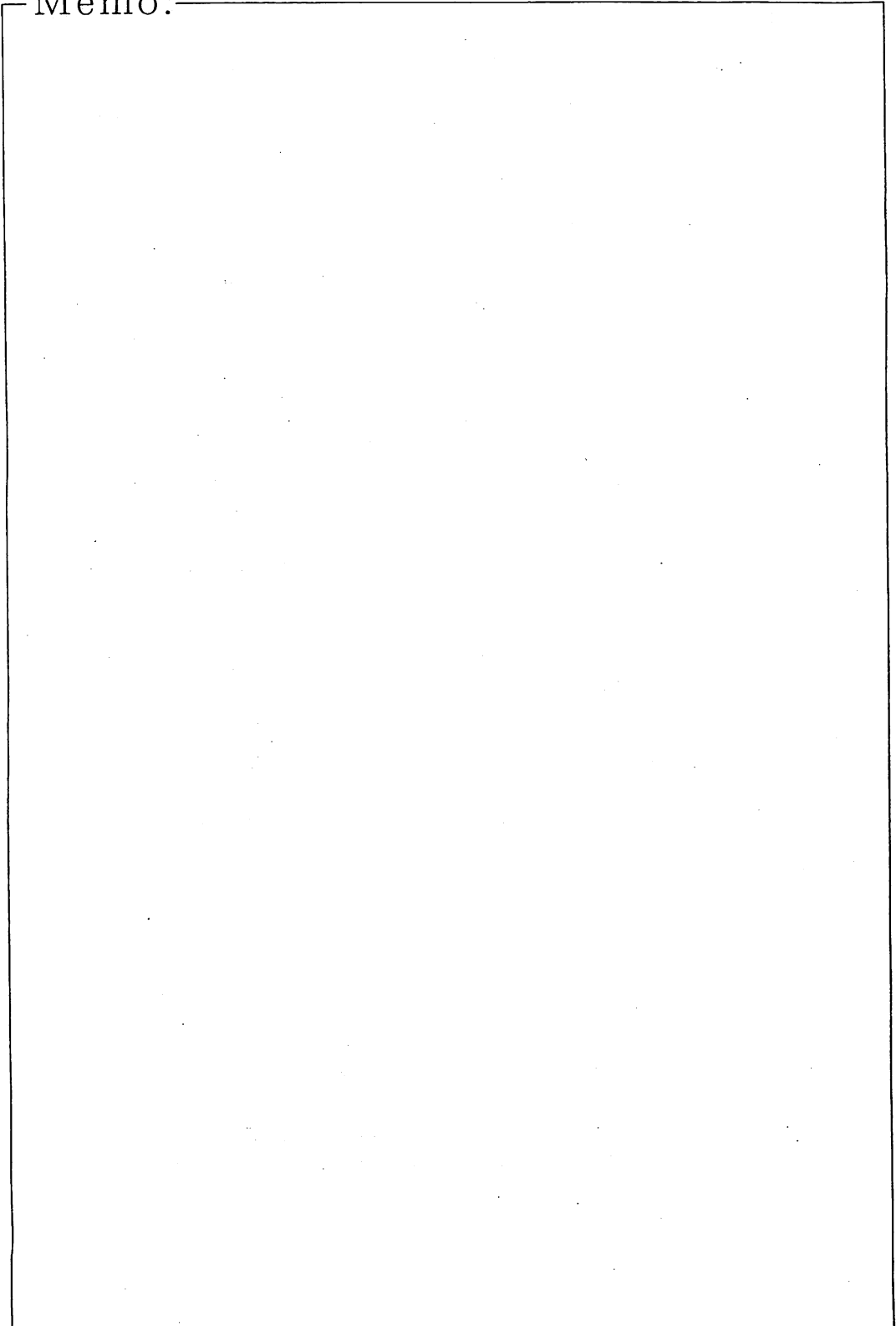
◎筆脈を意識して、行書らしく書かせる。

(3) 指導過程

指導事項	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	教具・資料
前時復習 目標把握	7分	・短文を聴写する。 「私は、今年の秋に、初めて 大きな志を立てた。」 ・「丸み」「形・点画の変化」「連続」 を確認する。	①速書 ②楷書で丁寧に ③既習の行書を使って	練習用紙① 小黒板
基準理解	5	・教科書を見て「初秋」の中 の省略を見つける。	左払いを折り返し、省 略があって、筆脈がくり つがる点を確認させる。	拡大手本
練 習	8	・練習用紙（硬筆）で練習す る。	筆脈を意識して適度な 速さで書く練習をさせる。	練習用紙②
示 範	3	・毛筆で省略の仕方を確認す る。	文字の外形にも注意さ せる。	水書板
練 習	15	・示範を参考に、省略部分の 筆使いを毛筆で練習する。 (3枚以上)	筆の持ち方・姿勢など 気をつけさせる。 手の遅い生徒には、 手取り法で援助する。	練習用紙③
自己評価	10	・毛筆作品に順番をつけて提 出する。(3枚) ・練習用紙②で基準通りに書 かれている文字に○をつけ て提出する。	基準による評価であるこ とを確認する。	
次時予告 日常生活 への転化	2	他の漢字で「しめすへん」「こめへん」「きへ ん」「のぎへん」「ころもへん」の省略の仕 方を練習することを知らせる。	友達の名前を今日学 習した行書で書けるか かける。	

- (4) 評 価
- ◎行書の特徴（省略）をとらえて書くことができたか。
 - ◎行書の書体に関心を持ち、意欲的に学習していたか。

Memo:



研究誌上発表

3年毛筆 書写の手びき

小松市立向本折小学校 校長 山本 穆子

1. はじめに

多くの子どもたちは、3年生になると毛筆書写が新しく加わり、新しい用具を持ち、どんなことをするのだろうかと胸をふくらませて授業に臨んでいる。

ところが受け入れ側の力不足から、簡単な準備や後かたづけの作業のふてぎわ、指導技術等の不足等から興味がなく、何となく自信のない授業に出合うことがある。高学年になっても、始筆・送筆・終筆等の基礎的事項にも影響をおよぼしていくことは当然である。

3年生の書写を持つ機会を得たが、書写を指導する教師へ少しでもヒントになり、何よりも、「書くことが楽しい。」「毛筆書写が好きだ。」と言える子どもが一人でも多くなることを願って実践した。

※この実践の記録は、昨年度まで3年間小松市立栗津小学校勤務時に年間を通して実践したものをまとめたものである。

2. 準備とあとかたづけの問題

非常に簡単に考えがちのことだが、案外、子どもにも教師側にも問題が多いのは準備やあとかたづけである。洋服をよごす、教室や廊下に墨汁が落ちる、墨液をこぼす等、思わぬハプニングのおきるのもこの時である。要領の悪い子や手先の不器用な子は、この時すっかり毛筆書写が嫌いになることがある。またあとかたづけが悪くて、しわだらけの下敷、カチカチの筆で思った字にならないなど、こうしたことも指導の大切な一面だと思う。

準備に際しては、水ばけつを2個用意し、紙は平均2～3枚、目的にあわせて配布する。

座席の横に、新聞紙縦二つ切りを2つに折って、洗たくばさみで綴り、書いた作品はその間にはさんでいくことにしている。教室の床も汚れず便利である。

書いたあと始末は、スポイドで墨液をかえし、筆を洗ったあと雑巾を持って筆をぬぐう。ティッシュですずりの中をふいてあとかたづけをする。

このような繁雑なような作業もすんなりと抵抗なくできるようにしたいものである。

最初に要領をつかませておけば、高学年になるにつれ、清潔に短時間にできるようになる。書くことだけを指導の目標にするのではなく、準備からあとかたづけまでを授業の一貫として考えたいものである。

3. 時間配分と指導内容の要点

殆んどの場合、2時間で1単元を行うようにしているが、3年生の「三」「川」「田」「犬」までは、3時間かけることもある。

横画・縦画・おれ・はらい等は、初めが肝要で、ここで悪いくせがついた時は、高学年に入ってもなかなかおしていくことができない。塾に通っている子どもたちも多いが、かえてそのくせが出て困ることもある。

小・中学生の子どもたちには、教科書を中心にしたくせのない指導をしたいものである。

授業の準備が整ったら、本時の目標を明らかにし、要点を把握して、試し、さらに相互評価や全体での評価をしてから、自分の作品にもどって問題点をつかませてから書く。

特に、3年生の場合は、始筆・送筆・終筆・おれ・はらい等の要点をさらに検討して、十分に納得ができるよう補助をしていく必要がある。黒くなった上に何回でも書くより、心を集中させ、正しく手本を見て、指導の要点を思い出させながら書かせる。最後に、本時の仕上げとして清書し評価する。

ア. 試書と清書との比較

1枚目の児童の書いた試書と終りに提出する清書と比較させ、練習したあとの自分の上達を知り、書く喜びが生まれる。

イ. 手取り法

机間巡視をして、筆使いのうまくいかない子に手を取って指導する。この時の教師は、ゆっくりと書くことが有効である。その際、文字の組み立て方について話してやるとよい。

ウ. 全体鑑賞

教師がみるポイント（ねらいや要点）を指摘している間に、見る目が育ち、自分の作品、友だちの作品を見ていくことができるようになる。

学習の要点などをつかむいい場である。

エ. 授業のパターンの変化

師範、説明をして書く。机間巡視をする。手を取って指導する。そして励みになるようにする。

型の模型で形をとる。筆順を示す文字型紙をつくる。自己評価、黒板での相互評価、全体評価、教師とマンツーマンの話しあい等、さまざまな形を取り入れていくことで、子どもの関心が高まり、ただ何枚かを書きなぐるようにすることがなくなっていく。

4. 横画「三」の実践例から

(第1時)

(1) 学習の用意をしましょう。

- ①用具を机の上に出し、きちんとおきましょう。(用具の配置図省略)
- ②机の上におかないものも、きちんと整理しましょう。
- ③すずりのうみの中に、墨液を半分の深さぐらい入れましょう。入れたら必ずふたをして、正しい場所におきましょう。
- ④筆に墨液をつけ、きめられた場所にきちんと置きましょう。

いきなり墨液を筆につけないで、まず穂を指でていねいにほぐしながら少しずつつけましょう。

⑤できたら、姿勢を正して静かに待ちましょう。

(2) 学習の目標 「始ひつ、送ひつ、終ひつに気をつけて書く。」

(3) 始筆のやり方

- ①姿勢をよくし、筆を正しく持ちましょう。
- ②始めに「気をつけ」の姿勢のように、軸をまっすぐに立ててみましょう。
- ③次に、少し右側に傾けましょう。
- ④さらに、少し手前(自分のからだの方)に傾けましょう。
- ⑤この傾きで、図のように画の書き始めの場所に静かに穂先からおろしましょう。
(図省略 — 時計の10時と11時の中間の方向)

(4) 送筆のやり方

よい姿勢で、筆を正しく持ち、軸の傾きや力の入れ具合をかえないで、筆を選びましょう。

(図省略 — 穂先の通る軌跡)

(5) 終筆のやり方

- ①画のおわりのところで筆をとめましょう。
この時、おさえてはいけません。おさえると下にこぶができます。
- ②穂先の方につき返すようにして筆をあげましょう。
右や手前へ少しかたむいていた軸を「気をつけ」のようにまっすぐ立てます。

(第2時)

(1) 学習の用意をしましょう。

(第1時の①～⑤に同じ。)

(2) 学習の目標 「始ひつ、送ひつ、終ひつに気をつけて『三』を書く。」

(3) 半紙1枚を出し、「ためし書き」をしましょう。

(ためし書きしたものに、小さく左上すみにしと書くようにしましょう。)

「ためし書き」がすんだら、教科書と自分の書いたものを比べてみましょう。

(4) 「ためし書き」をふり返って、さい点してみましょう。

(たいへんよい……◎ よい……○ もう少し……△)

①始筆は、うまくいきましたか。

(第1時の(3)と同じ)

②送筆は、うまくいきましたか。

(第1時の(4)と同じ)

③終筆は、うまくいきましたか。

(第1時の(5)と同じ)

①～③とも(4)の「さい点基準」でさい点させる。

(5) 始筆、送筆、終筆に気をつけて「三」を書きましょう。

①1画目は、少し上にそるよう書きましょう。

②2画目は、まっすぐに書きましょう。(向きは少し右上がり)

③3画目は、少し下にそるよう書きましょう。

(図省略 — ①～③とも師範黒板の使用)

(6) 墨のつぎ方について

始めのうちは、1画ずつ墨をついでもいいですが、墨をつける量と書くスピードに気をつけて、途中で墨つぎがないようなやり方にはやく慣れましょう。

(7) 3つの横面の長さや、横面と横面との間のあけ方にも気をつけながら「三」を書きましょう。

(書いたら、さい点してみましょう。)

(8) 半紙を1枚出し、きょうのまとめとして、清書しましょう。

(9) 清書がすんだら、

①反省カードに、きょうの学習の目標がうまくいったかどうかのさい点をしましょう。(反省カードを右下にはる。名前を鉛筆で書く。)

(図参照 — 児童・教師ともに採点基準の記入してある反省カード)

②となりの人と清書のできばえを話しあってみましょう。

(10) あとかたづけをしましょう。(2項に同じ)

5. おわりに

はじめて毛筆に接する3年生の授業の大切さと、それに徹するには相当に指導の力量を感じるこの頃です。1時間の授業に3時間分の労力を要することもある。それに比例するように、驚くほどに向上していくからである。

「習字おもしろいわ。」「この次、習字の時間ぬけるのいや。」等といわれると、この年になっても嬉しいものである。子どもたちも、正しく、おもしろく、心を集中して熱中した時は、充実感を味わうのであろう。

義務教育では、ごく平凡でくせのない書写の学習をし、将来それから個性的なものを楽しめるように発展することを願うものである。

指導要領改訂における書写指導の扱い

—— 硬毛関連指導の一例 ——

金沢市立中央小学校 教諭 板本 爽見

1. はじめに

本年度は、指導要領改訂施行の初年度に当たり、改訂のポイントをふまえた書写指導のあり方について、昨年度の稚拙な実践をもとに書き進めたいと思う。

指導要領における書写指導の大きな改訂点は、「3年生以上の毛筆書写指導時間を35単位程度とするところである。これは、毎週1時間程度の毛筆書写指導が位置づけられたことで、従来の週1時間程度の書写の時間を毛筆と硬筆書写と交互に指導していたことを比べると、毛筆書写指導時間が実質増えることである。

ところが、「毛筆指導は、硬筆による書写能力の基礎を養うようにすること」である。毛筆書写指導の時間を週1時間程度としたのは、毛筆書写指導を通して硬筆で文字を正しく整えて書くことができるようにするところにねらいがある。確かに毛筆という用具を使って書くことにより、文字の点画をしっかりと理解していけるであろう。

そこで、毛筆書写指導をどのように取り扱えばよいのか。そして、硬筆との関連をどのように指導すればよいのか。硬毛関連のあり方を含めて考えていきたいと思う。

2. 毛筆指導のあり方と硬筆指導との関連について

ここでは、毛筆で平仮名の筆使いの学習をして、この学習を生かして、硬筆で平仮名を丁寧に書けるようにする3年の硬毛関連指導の実践を述べたい。単元総時数4時限の学習である。

- (1) 単元 筆使い (ひらかな) 第3学年
- (2) 目標 平仮名の筆使いに注意して、平仮名を書くことができるようにする。
- (3) 指導計画 総時数 4時限

次 時	指 導 の ね ら い	学 習 活 動
第 一 次	・平仮名の筆使いを理解して「こい」を書けるようにさせる。 (毛筆)	・「こい」を書き、平仮名の筆使いの注意するところを理解する。 ・「こい」を練習・批評・清書する。
第 二 次	・毛筆の学習を生かして、硬筆で平仮名をていねいに書けるようにさせる。 (硬筆)	・毛筆の学習を生かして、向い合う画折れ、折り返し、曲がり、結びなどの筆使いに注意して硬筆で平仮名を書く。

<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">時 限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基準を知る。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 練習する。 3. 自己批評し、練習する。 4. 相互批評する。 5. 学習のまとめをする。 	<p>使いについて話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示範したり、教科書を見せたりして学習の基準を理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「い」の二画は向い合うように書く 「い」の二画の画の長さの長短 一画と二画は続けるようにして書く 軽く入筆、終筆する</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 2. 練習用紙を用意して、筆使いに注意して書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆の軸を回さないように注意させる。 ・練習させ、上手に書けるようになったら向い合う画のある「け」を毛筆で書かせる。 4. 基準に照らし、相互に批評させる。 5. 半紙に「い」を書かせ、自己評価させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「い」を平仮名の筆使いに注意して書けたか、画の長さの違いはどうか</p> </div>
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">時 限</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習のねらいをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習の基準を確認し、字形に関する基準を知る。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 練習する。 3. 自己批評し、練習する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時は、既習の平仮名の筆使いに注意すると共に、字形にも注意して、「こい」を練習、清書することをつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「こ」と「い」の字形の違いに気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「こ」は、縦長の長方形 「い」は、横長の長方形</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 2. 平仮名の筆使いや字形に注意して「こい」を練習させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習用紙を用意しておく ・穂先の動きに注意する 3. 基準に照らして自己評価させる。

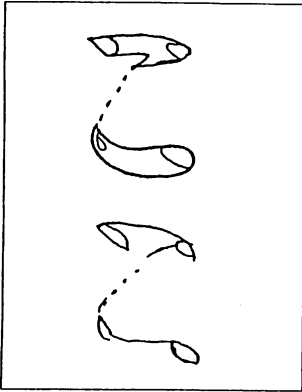
3 時 限	<p>4. 全体批正する。</p> <p>5. 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上手に書けるようになったら「たけ」を毛筆で書かせる。 4. 平仮名の筆使いができているか、字形に注意して書けたか、基準に照らして批正させる。 5. 半紙に「こい」を清書させ、前々時の試し書きと比べて、学習の効果を確認させる。 ・毛筆の学習を硬筆に生かそうとする意識をもたせる。
4 時 限	<p>1. 学習のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェルトペンで試し書きをする。 ・学習の基準を知る。 <p>2. 練習する。 (ます入り用紙に書く)</p> <p>3. 自己批正し、練習する。</p> <p>4. 学習のまとめをする。</p>	<p>1. 本時は、毛筆で学習した筆使いを生かして、硬筆で平仮名を書く学習であることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬筆で既習の「こい」を書かせて、硬筆で書くことについて話し合わせる。 ・教材を見て、平仮名を書くときの筆使いについて注意するところを話し合わせる。 ・教科書を見て「え・つ・の・ま」を試し書きさせる。毛筆の学習が生かされているか話し合わせる。 ・示範したり、教科書をみせたりして、曲がり、結び、折れ、折り返しなどの筆使いを理解させる。 <p>2. 「え・つ・の・ま」をフェルトペンで練習し、この字に関連した仮名を鉛筆で書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>鉛筆のじくを回さないように書く全体にやわらかい感じをもたせるように筆使いに注意して書く</p> </div> <p>3. 基準に照らし自己批正し、上手に書けない文字や部分を練習し、批正させる</p> <p>4. 平仮名の筆使いに注意して、向い合う画、折れ、折り返し、曲がり、結びのある平仮名を清書させ、自己評価させ</p>

4 時 限	・学習のふり返り	る。 ・毛筆で学んだ筆使いが硬筆に生かされたか。また、硬筆で書くあらゆる場合に生かしていけるか学習をふり返させる
-------------	----------	---

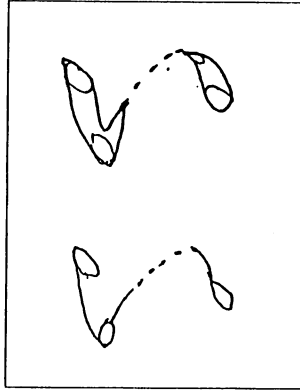
(5) 考察

- ・ 1 時限 (毛筆) —— この時間は、課題を把握し、主に「こ」を中心に学習させた。この導入段階では、漢字と平仮名を対比して見せたり、平仮名を大きく空書させたりして漢字と平仮名の違いに気づかせた。この後、試し書きをさせると、自他の書いた文字から問題点を見つけて、課題として意識づけることができた。児童の多くは、一画から二画への筆の運び（虚画）に目をむけた。また、入筆や送筆の弧を描くような丸みのある筆使いに注目するようになった。平仮名の筆使いを理解させるには、ゆっくりと示範することが効果的である。示範には、空筆で動きを見せる場合、水書板で示す場合があるが、いずれにしても、筆先の動きに注意させた。練習には下記のような練習用紙を与え、抵抗を少なくした。
- ・ 2 時限 (毛筆) —— この時間は、平仮名の筆使いに注意して「い」を中心に学習させた。特に、左右の画は向い合うようにして書くことを大切に指導した。そして、発展的に向い合う画のある「け」を練習に取り入れて、平仮名の筆使いに慣れさせた。
- ・ 3 時限 (毛筆) —— この時間は、前時 2 時間の平仮名の学習をもとに、字形（「こ」は縦長の長方形、「い」は横長の長方形）にも注意させて練習させ、相互批評をし清書させた。また、発展的に向かい合う画のある「た」の字の練習も取り入れ筆使いに慣れさせた。以上、毛筆 3 時間配当することによって平仮名の筆使いが理解されたようである。
- ・ 4 時間 (硬筆) —— 本時は、毛筆で学習した筆使いを生かして硬筆で平仮名を丁寧に書く学習である。まず、毛筆で学習した向かい合う画のある平仮名をフェルトペンで練習し、この後で鉛筆で、折れや折り返し、曲がりや結びのある平仮名を鉛筆の運びに注意して書かせた。毛筆 3 時間の学習が生かされて、意欲的に、筆使いに注意して丁寧に書けたようである。

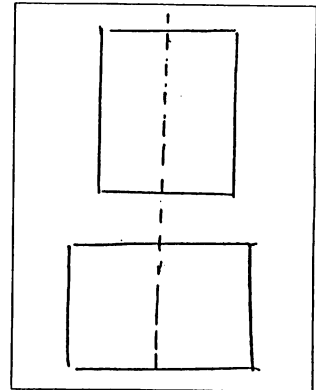
1 時限使用



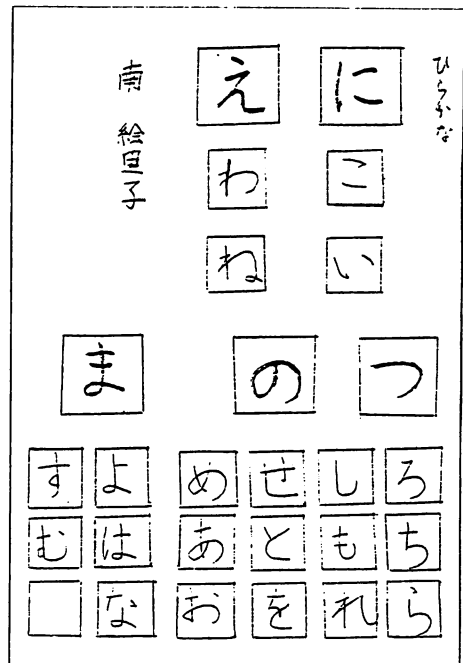
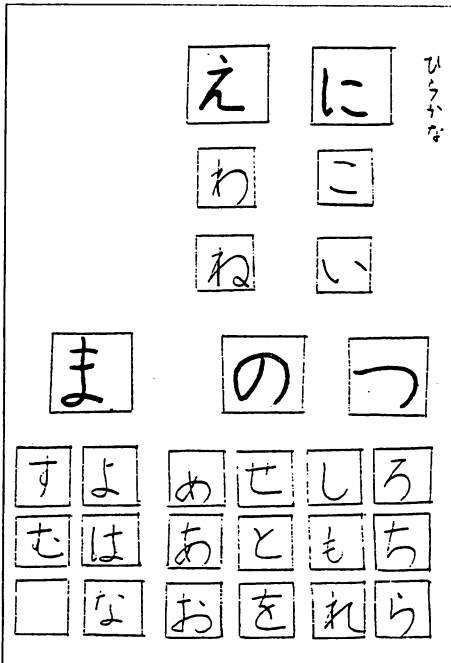
2 時限使用



3 時限使用



(6) 作品例



3. おわりに

毛筆による学習は、低学年で学習した文字の基本点画を再度丁寧に学習することになる。毛筆の特性を生かして正しく文字を学ぶことによって、文字意識を高め、硬筆による書写学習を容易にし、日常生活のあらゆる場に正しい文字が使えるようになることをねらっている。

楽しい書写の授業を目指して

七尾市立天神山小学校 教諭 川崎 律子

1. はじめに

数年前に、2年生から6年生までの書写を持つ機会に恵まれた。それを契機として書写指導に興味を持つようになった。高学年の毛筆においては個人差が著しい。週1時間の授業で、基礎的な技術も定着しないまま、毛筆の授業にほとんど無関心な子がクラスに何人か見られた。

そこで、一人ひとりの能力に応じて充実した書写の授業をするにはどうすればよいか自分なりに考えてみた。

- (1) 学年相当の基礎的な力をつける。
- (2) その時間の目標を明確にする。
- (3) 1時間の授業の中で、初めと終わりの自分の字の変容を自ら気づかせ、その時間の成果を意識できるような手立てをする。
- (4) わずかな上達も認め、励まし、字を書くことへの興味と意欲づけを常に配慮していく。

以下は、昨年5年生で行ったささやかな実践である。

2. 実践例

(1) 基礎・基本を押さえるために

まず、基本を押さえることが大切だと思い、2学期途中ではあったが、毛筆指導のビデオ教材・初級編を見せながら学習した。書く前の準備・筆使いの基本など、ビデオを止めながら実際に書いてみて進めていった。ふだんのパターン化した授業と違い、目新しさもあってか予想以上に子どもたちは熱心に取り組んだ。1時間終了後、感想を書かせたところ、基本の大切さを再確認をしてくれたようだった。

〈児童の感想より〉

児童1 10月1日(火)

習字

今日の6時間目、先生は黒板に、「初心わすれるべからず」と書いていました。いつも初めての心できんちょうしながらやるということだけど、最近、習字のときじゃなくても、気がゆるんでいるというふうに自分のことを思います。

毛筆のビデオをみていて、まず持ちかたもだんだん

「習字なんて」

という心が少しずつはいつてきているのでえんぴつの持ちかたに似

ているし、しせいもこぶしのかんかくというのも知らなかったし、これから少しずつ初心を取りもどしていきたいです。

児童 2

習字

10・1・火

こんな勉強は初めてでした。授業のはじめの方はビデオを見たりして横画・たて画書きました。わたしは、何でこんな勉強をするのか知りたかった。いきなり、基本にもどって勉強だから、何かわけがあるからだと思い何か不思議だった。

わたしは、習字を習いはじめたときのことをおもい出した。2年生の6月から習いはじめた。最初は、今日した横画、たて画の練習をした。わたしは、すみをどばどばとつけすぎて、半紙をべたべたにして、先生に見せにいったのを覚えている。そのときより今日はとてもじょうたつして、きれいに書けました。

児童 3

前よりよくなった。

6時間目は習字です。今日は「進歩」という字をかくのかと思ったけれど、ちがってビデオをみながら、習字をかきました。たてやよこの線のかき方や、作う前の順備、作ったあとのあとしまつのし方などたくさんビデオで勉強しました。

そのまま「進歩」という字をこういう勉強しないでやっていたらわたしはきっと、おさえやしひつなど、とてもきたなかったと思います。

正や田、中、止などたて、よこだけ使う字をかきました。前、田と正ならかいたことがあるけど、そのときよりおさえやとめがよくなったと思います。

こういうビデオをみてよかったです。

児童 4

10 / 1 これからは・・・

三年生の初め、学校ではじめて習字を習った。習字道具の名前などを習った。

そんなことをふり返って、今日は勉強した。かいてみると思ったよりむずかしかった。まっすぐかくのがむずかしかった。ふでをおさえる強さを1画の一本の線の中でもかえたりすることを知った。しせいもきちんとして、気をつけようと思った。後かたづけもすずりをしっかりふくことや、筆もきちんとしてすみをおとすということなどをあらためて知った。

道具などを大切に大事に使ったりしようと思った。

(2) 授業実践例

第5学年国語科書写（毛筆）学習指導案

5年2組

平成3年12月11日（水）5限

指導者 川崎 律子

1. 単元名 書きぞめ

2. 単元の目標

書きぞめ用紙に、「平和な国」を文字の組み立て方や文字の中心、筆順などに注意して、のびのびと書くことができる。

3. 教材 「平和な国」

4. 指導にあたって

5年生ともなると、毛筆の力においては個人差が大きくなり、基礎事項が定着していないままの子は、どうしても書くことに対して意欲がなくなりがちである。

そこで、2学期の初め、ビデオ教材などを用い、初歩からのおさらいを試みたところ、予想以上に児童の反応は大きかった。それまで、あまり毛筆書写に対して積極的でなかった児童も少しずつ興味を示すようになってきている。

今回、書きぞめに取り組むに当たり、自分の作品を美しく書けたという喜びを味わわせたいと思っている。そのためには、文字の組み立て方、文字の中心、筆順などに気をつけて、字配りよく書くことを重点的に指導したい。さらに、1時間の授業の中で、各自が学習の目標をつかみ、自分なりの成果を意識できるような授業にしたいと思っている。

5. 指導計画（3時間）

（第1時）半紙に「平和」の二文字を、文字の中心と文字の組み立て方に注意して書かせる。
（本時1／3時）

（第2時）半紙に「な国」の二文字を、文字の大きさと文字の中心に注意して書かせる。

（第3時）書きぞめ用紙に「平和な国」の四文字を字配りよく書かせる。

6. 本時の学習

(1) 題名 平和な国

(2) ねらい 半紙に「平和」の二文字を、文字の中心と文字の組み立て方に注意し

て書くことができる。

(3) 展 開

学習活動	配時	学 習 内 容	指導上の留意点
1 学習のねらいを知る。	3'	書きぞめの「平和」を半紙に書く学習をする。	文字を大きく書く意欲を持たせる。
2 試書する。	5'	半紙に試書する。	本時の学習課題に対しての児童の実態を見る。
3 批正をする	10'	手本と比べ、書いた文字について話し合う。 文字の外形、へんにつくりの組み合わせについて考える。	教材文字と試書したものとを比べて課題意識を持たせる。 OHP を使って、それぞれの文字の外形をつかませる。
4 一次練習をする。	5' 10'	半紙に練習をする。 文字の中心について話し合う。	OHP を使って、文字の中心を押さえる。 平…中心に左右の面の長さ に目をつけさせる。 和…のぎへんの第1画、第2画、第5画の右端が 中心線にそろうことに 目をつけさせる。
5 二次練習をする。	5'	半紙に清書をする。	本時の学習基準に沿って書く努力をさせる。
6 相互批正する。	5'	試書と比べ、進歩した所を見つけ、発表し合う。 進歩した箇所に赤ペンで○	

7次時の学習のねらいを知る。	2'	をつける。 書きぞめの「な国」を半紙に書く学習をする。	
----------------	----	--------------------------------	--



平成3年度 石川書写の会

— 研究授業風景 —

3. 授業を終えての考察

(1) 三段階の練習（ねらいを絞って）

まず、初めは手本を見せずに自由に書かせた。普段は左に手本をおいて書くことが多いため、何もない所で不安な手つきで書き始める子が多かった。

二回目は、手本を見比べ、外形をつかみ、その点にしぼって書かせた。平を○に、和を□にと外形を意識することで字形が整ってきた。

三回目は、文字の中心について話し合った後、書かせた。平に中心からの画の長さ、和のへんの右端をそろえることに注意して書かせた。自分たちの話し合いの中で、どう書けばより美しく整った字になるかを発見したことで、三回目は、自信を持って書いているようだった。

以上のように、目標を欲ばらずに一回ごとにねらいを絞って書く方がより効果的な指導ができるように感じた。

(2) 児童側の視点に立って

手本を見ずに書いてみて、不安だったところ、どう書いていいかわからない所を発表させた。一方的に教えられるのではなく、自分たちで発見しながら自信を持たせたいと思ったからだ。

姿勢、筆の持ち方についても、なぜ背すじを伸ばして書かなくてはならないのか、なぜ筆の下の方を持って書くとうまく字が書けないかを、体を通して納得させ、学んでいくことが大切だとわかった。

4. 終わりに

私の発表は、一時期の実践にすぎず、書写指導についての研究の入口に立ったばかりである。学ぶべきことは、まだまだ数多く残されている。今後、書写や国語の時間だけに限らず、子どもたちの、美しい文字を書こうとする態度が育つよう、研究を進めていきたいと思う。

篆書指導の実践

石川県立金沢商業高等学校 教諭 永江芳教

1. はじめに

本校における芸術科書道の履修単位状況は、書道Ⅰを2単位（1年次）、書道Ⅱを2単位（2年次1単位、3年次1単位）の計4単位である。しかし、平成6年度よりどのような履修になるかは現在未定であるが、厳しい状況下にあることだけは間違いない。

現3年生の年間指導内容の概略は次のとおりである。

1年次・・・書道Ⅰ「楷書、行書、仮名」

2年次・・・書道Ⅱ「仮名、草書、隷書」

3年次・・・書道Ⅱ「隷書、篆書、篆刻、生活の書」

古典の臨書学習を主軸に、鑑賞や創作活動を適宜導入し、生徒の興味・関心を高めるよう留意して指導にあたっている。ここでは、3年次に指導している「篆書」について、その実践の一端を記したい。私自身、篆書は不得手な分野であり、生徒と共に模索し、学習している段階である。

2. 指導にあたって

- (1) 篆書は生徒にとって見慣れない書体であり、学習の意義はもちろんのこと篆書の独特な美しさについて理解のされにくい教材である。それは、文字を書くというより、図形や記号を描くという意識になってしまうためであろう。
- (2) 前年度までは、少しでも生徒が篆書に親しむことができると考え、筆遊びと称して、生徒個々の思いのままに表現させていた。例えば、甲骨文・金文・木簡等を指導する際、いわゆる書法に余り固執せず、比較的自由に書かせていたのである。しかしながら、これでは篆書の結構や用筆・運筆の美しさを理解するまでに到らない。本年は、篆書を学習する楽しさ、難しさに正面から触れさせようとじっくり一つ一つ基本的なことを指導してみようと決意した次第である。
- (3) 現在使用している教科書「書法Ⅱ」（角川書店）は、主に結構を中心に編集されている。そこで、臨書の題材として、小篆の「泰山刻石」の復刻版を取り上げることにした。周末戦乱の世を統一した始皇帝の威厳を示すかのように、荘重で力強く且つ装飾的な美しさがあるからである。
- (4) 指導計画作成にあたり配慮したことは、目標を最小限に絞ること、その目標到達点にできるだけ全員が達するまで次の段階に進まないことである。

指導のポイントを順に挙げると

- ① 篆書の歴史的な位置付け
- ② 前時までに学習した隷書の用筆・運筆との関連（直筆・横画の方向など）
- ③ 逆筆・藏鋒（用筆）

- ④ 等圧・等速（運筆）
- ⑤ 均斉の美（結構） ・左右相称 ・分間布白
- ⑥ 筆順
- ⑦ 接筆
- ⑧ 遅速・潤濁による変化（線質）

(5) 生徒の多くは、「にじみは汚い」とか「かすれたら駄目」といった固定概念を強く持っている。特に仮名や草書学習で墨継ぎの効果（潤濁）について個別指導してみたが、提出作品には濁筆がほとんど見られなかった。そこで、篆書学習において再度潤濁と運筆の遅速による変化について指導することにした。少しでも生徒に幅広い線質の理解と習得を願ってのことである。

3. 学習指導案

授業実践例《芸術科書道Ⅱ・篆書学習指導案》

○ 単元設定の理由

最も古い書体である篆書は、現代の社会生活においては常用されていないが、印鑑・装飾・創作作品などでは多く使われており、書においてはあらゆる書体の根源的書体として重要な意味をもっている。また、後に篆刻を学習するための準備としても不可欠である。さらに前単元で学習した隷書の用筆（蔵鋒）を深めさせようと設定した。

○ 目 標

1. 篆書について歴史的な概略を理解させる。
2. 篆書の結構と用筆・運筆の基本を習得させる。
3. 遅速・潤濁による線質の変化を理解させる。

○ 指導計画

- ・ 第1時限 …… 横画、縦画中心に基本練習
- ・ 第2時限 …… 均斉の美、筆順を中心に基本練習（皇帝）
- ・ 第3時限 …… 字形、接筆を中心に基本練習（臨立）
- ・ 第4時限 …… 4字清書（皇帝臨立）
- ・ 第5時限 …… 半切縦横 $\frac{1}{2}$ の大きさの紙に書かせる
- ・ 第6時限 …… 半切縦横 $\frac{1}{2}$ のまとめ方についての説明、等圧・等速均斉の美を中心にまとめさせる
- ・ 第7時限 …… 潤濁・遅速の変化を中心にまとめさせる

○ 指導課程

第1時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	5分 10分 10分	○準備 ○篆書についての概略 ○隷書の用筆・運筆との関連 始筆・送筆・終筆 点画の太さ	○文字の発生より歴史的な概略を知らせる (泰山刻石の説明含む) ○前時まで学習した隷書と比較させ、相違点・共通点を理解させる。 (字形、曲→直の関係、藏鋒) ○用筆の基本を教科書及び板書で説明する。	教科書 p14 資料-A p15
展開	20分	○基本線の練習 (横画・縦画) ○逆筆・藏鋒 ○等圧・等速書く ○転折の書き方	○OHP使用や個人指導による示範揮毫の際、生徒に難しいものと思込ませないように配慮する。 ○再度逆筆について注意する。 ○線の太さを一定に、力まずゆっくりと運筆させる。 ○プリントの説明で理解させる ○横画・縦画を練習した作品を記録として保存させておく。 ○横縦画ができた者から“皇”の斜面の練習。 ○書き上げた作品に番号をつけさせる。	OHP ・プリント 資料-B
まとめ	5分	○本時の感想 ○次時の説明 ○後始末	○感想を数人に聞き、全体の反応を見る。 ○次時は“皇帝臨立”4文字を書くことを知らせる。	

第2時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	5分 10分	○準備 ○前時の確認 ○本時学習のポイント 均斉の美 左右相称 分間空白 ○筆順	○前時の作品を見ながら用筆の確認。 ○「皇」「帝」「立」等左右対称になる字形が多いことを理解させる。 ○原則的に余白（画と画の間）の広さが等しくなって見えることに気付かせる。 ○プリントで基本部首の書き方を説明し指書させる。	作品集 教科書 プリント 資料-C
展開	30分	○基本線の練習 ○「皇」「帝」を順次練習	○「皇」の文字を分解した線と組み立てた文字を一枚の紙に書かせる。 ○各自納得したら次に進む。 ○机間巡視で一本一本の線及び左右相称・余白の取り方を指導する。 ○作品に通し番号をつけさせる	教科書 OHP
まとめ	5分	○自己評価 ○感想 ○次時の説明 ○後始末	○各自で本時の目標到達度を確認させる。 ○次時は、接筆を中心に学習する。	

第3時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	5分 10分	○準備 ○前時の確認 ○本時学習のポイント 字 形 接 筆	○前時の作品を見ながら字形や用筆等を確認させる。 ○篆書の字形は横画よりも縦画を主とし、基本的に縦を長く書くことが多く、縦長の字形であることに気付かせる。 ○縦画と横画がそれぞれ接する時、深くしっかりと結合していることを理解させる。	作品集 教科書 板 書
展開	30分	○基本線の練習 「皇」「帝」「臨」「立」 を順次練習 ○半紙に四字書 「皇帝臨立」	○各自納得したら次に進む。 ○半紙を縦横に折らせる。 ○練習した作品に全て通し番号を付けさせる。	OHP
まとめ	5分	○本時学習ポイントチェック ○次時の説明 ○後始末	○各自で本時の目標到達度を確認させる。 ○次の時間、半切四字書きで清書することを知らせる。	

第4時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	5分	○準備 ○前時の確認 ○今までの学習ポイント再確認する。	○前時の作品を見、悪いところをチェックさせる。 ○始筆・終筆・線の太さ・字形（縦長、左右相称）・接筆・分間布白のチェックをする。	作品集
展開	20分 15分	○半紙四字書きで練習 ○「皇帝臨立」四字清書	○用紙を折らせる。 ○縦長の字形を強調する。 ○示範揮毫及び机間巡視で、まとめ方及び、ゆるやか・静かに線を引くことを知らせる。	教科書 OHP
まとめ	5分	○次時の説明 ○後始末	○次時は自習の為、清書用紙（半切縦横 $\frac{1}{2}$ ）2枚配布 ○半紙練習後清書することを指示する。（名前を必ず入れる）	教師作品

第5時限目

自習		○前時の指示に従い清書2枚提出させる。	○半紙練習後半切縦横 $\frac{1}{2}$ に清書	
----	--	---------------------	------------------------------	--

第6時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	15分	<ul style="list-style-type: none"> ○準備 ○前時に書かれた作品を掲示し、鑑賞する。 ○全体のまとめ方及び、氏名の入れ方を指示する。(均斉の美) 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの作品の良い点、悪い点を(6~7枚掲示する)教科書と比較鑑賞させる。 ○名前の入れ方、全体のまとめ方を考えさせる。 ○線の太さを一定に力まず(等圧等速)を生徒作品と教師作品を比較再確認させる。 	<p>生徒作品</p> <p>教師作品</p>
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ○半切縦横$\frac{1}{2}$用紙に四字清書する。(用紙2枚配布) 	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで書かれた作品の反省の上に立って総仕上げさせる。 ○半紙練習後清書させる。 	
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○後片付け ○次回の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○次回、潤渇を中心にした作品を書くことを知らせる。 	

第7時限目

過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料等
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○準備 ○前時の反省確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に書かれた作品を参考にし、遅速・潤渇の説明する。 	生徒作品
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> ○潤渇遅速の変化に注意し半紙練習及び清書する。(縦横$\frac{1}{2}$用紙) 	<ul style="list-style-type: none"> ○清書用紙2枚配布 ○机間指導で墨量調整や遅速変化をチェックし渇筆の出し方を気付かせる。 	
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期当初の予定を説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○創作作品 書体・文字・字数・紙の大きさを、別紙用紙に書かせる。 	

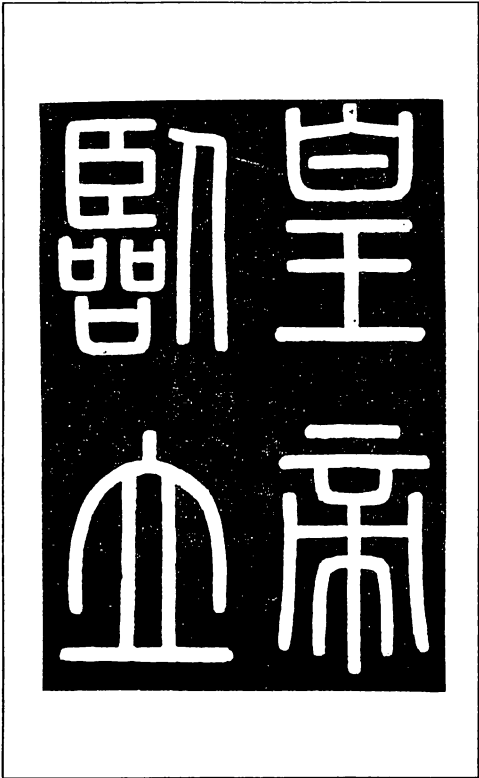
			○夏休みに入る迄に上記の事を 考え、提出させる。
--	--	--	-----------------------------

書法Ⅱ（三訂版）角川書店

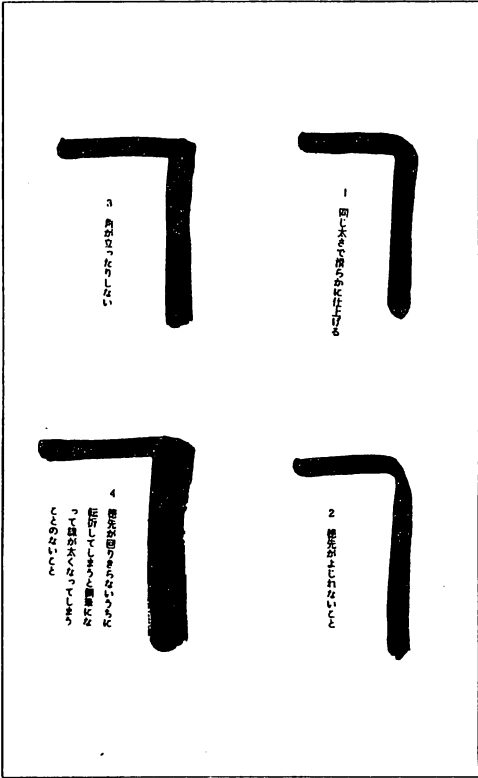
○ 篆書指導の評価

- (1) 篆書の均齊な美について理解できたか。
- (2) 篆書の用筆・運筆の基本を習得できたか。
- (3) 遅速・潤濁による変化を表現することができたか。
- (4) 用紙に（半紙・半切縦横½）体裁よくまとめることができたか。

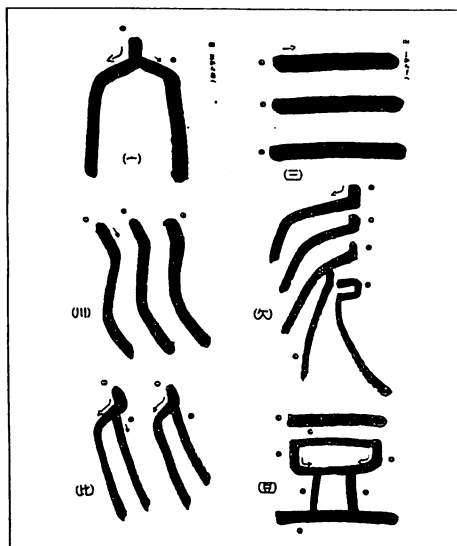
資料-A



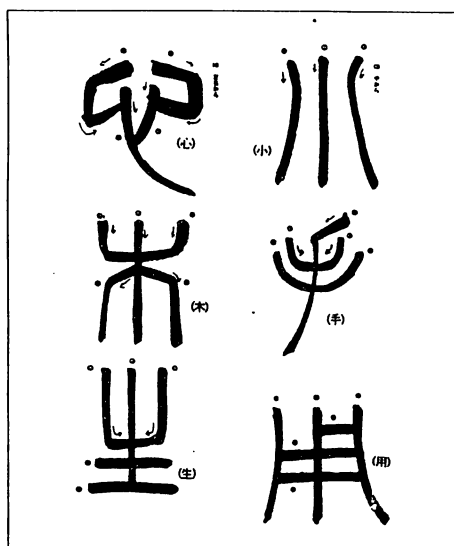
資料-B



資料-C-①

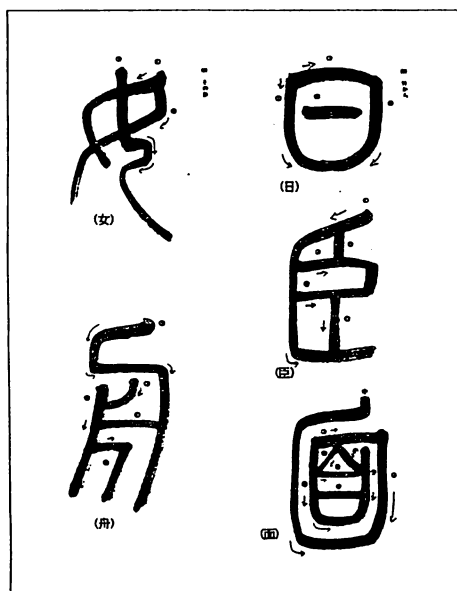


資料-C-②

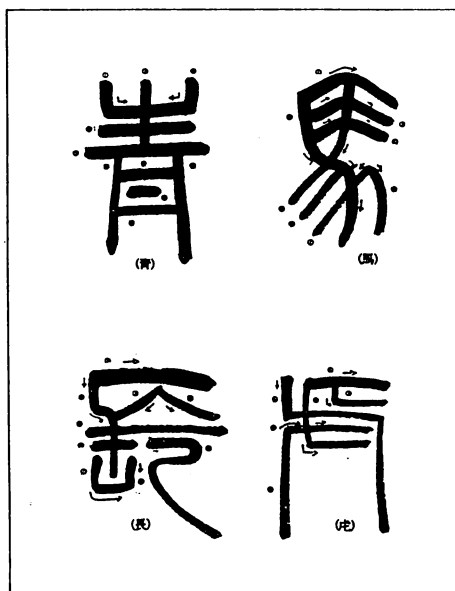


筆書の筆順 (一般的な例)

資料-C-③

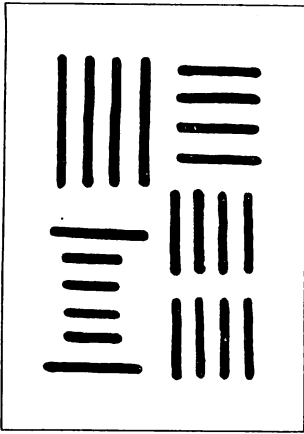


資料-C-④



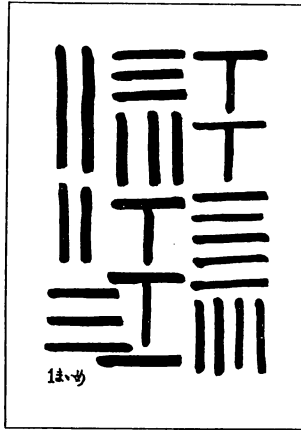
生徒作品及び作品評
 《第一時限》

A-①



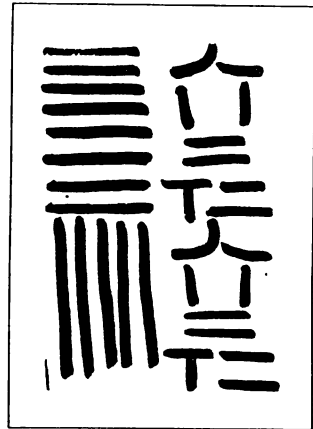
・ゆったりとした線で書かれ、良く書けている。

B-①



・等圧・等速良くできている。

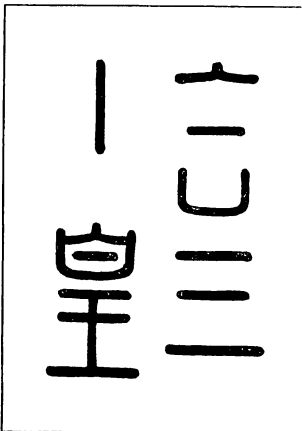
C-①



・始筆。終筆もう少し、その他良好。

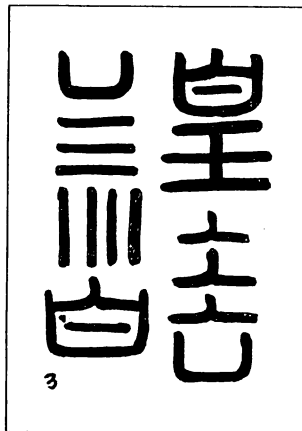
《第2時限》

A-②



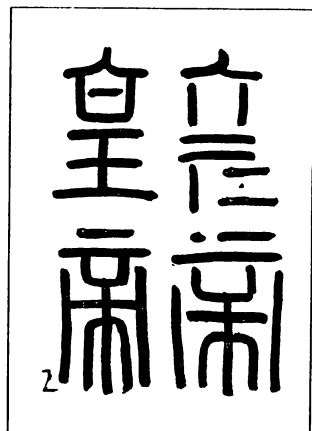
・均斉の美他上手に表現されている。

B-②



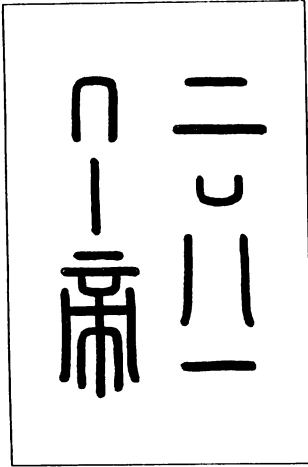
・横画が少し右に上がっている。

C-②



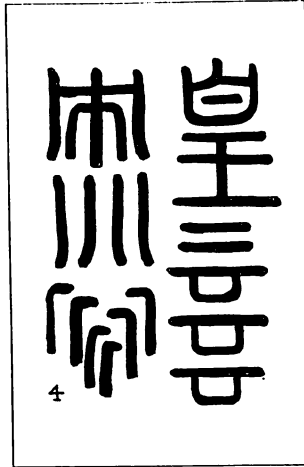
・横画は水平に、縦画は垂直に。

A-③



・等圧・等速及び転折の書き方良好である。

B-③



・次は接筆のし方を学習するとさらに良くなる。

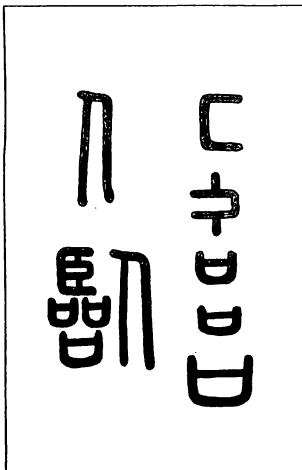
C-③



・左右相称になるように書くこと。

《第3時限》

A-④



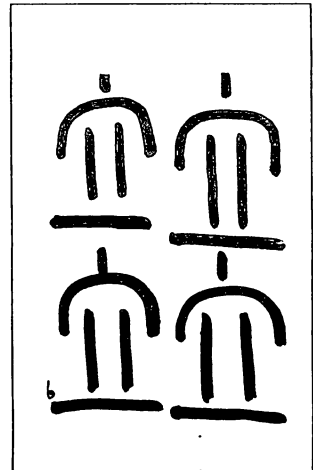
・わずかに右上がりになっているが、良くできている。

B-④



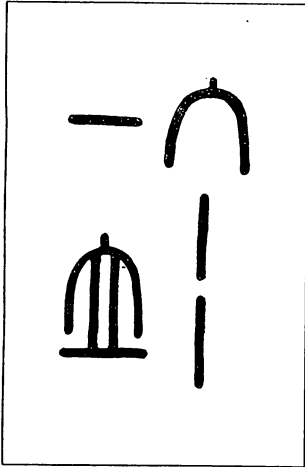
・全体的に右上がりである。

C-④

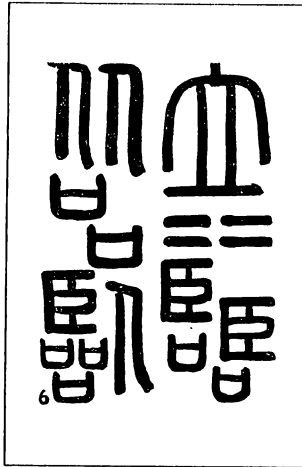


・画数の多い時の線の太さに注意。

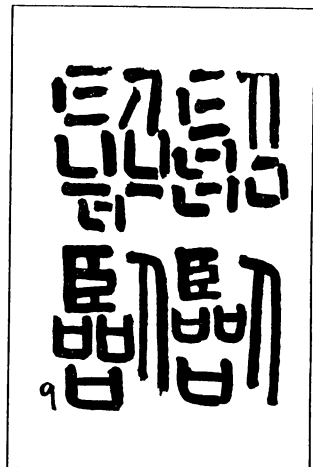
A-⑤



B-⑤



C-⑤



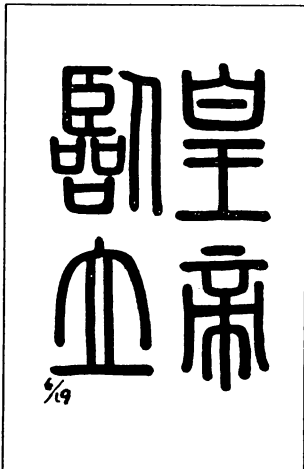
・接筆に関してもう少し深く結合するとさらによくなる。

・縦画・横画・しっかり書けるようになった。本時の課題、接筆に注意。

・二画目は一筆で書くのではなく、二筆で書く。

《第4時限》

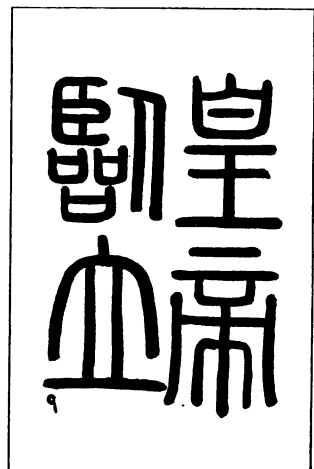
A-⑥



B-⑥



C-⑥



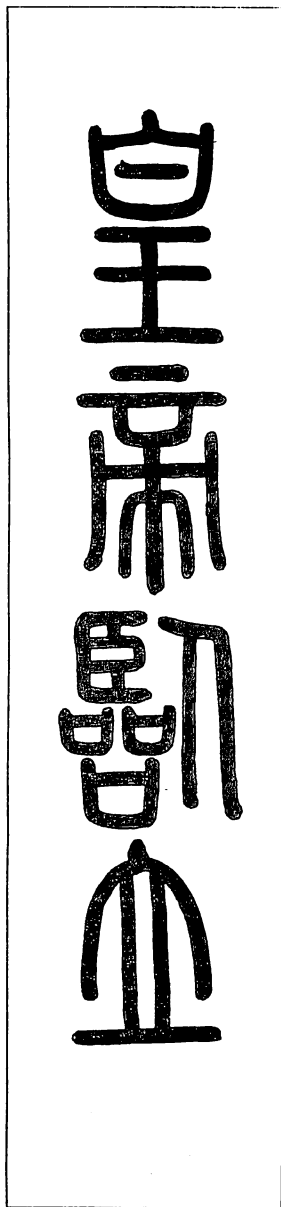
・篆書の特徴が良く出ている。

・字形のとり方や縦画・横画がしっかり書けるようになった。

・前時と比べるとかなり上達している。後は、もう少し縦画の方向に注意し。

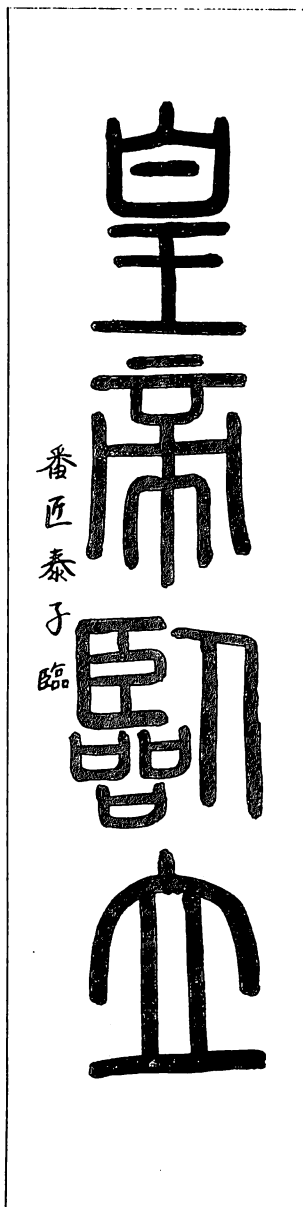
《第6時限》

A-⑦



・三字目で少し大きくなりましたが、その他は良好

B-⑦



・一字一字だけでなく、全体のまとめ方として、常に上の文字を見ながら書くように。その他良好。

C-⑦



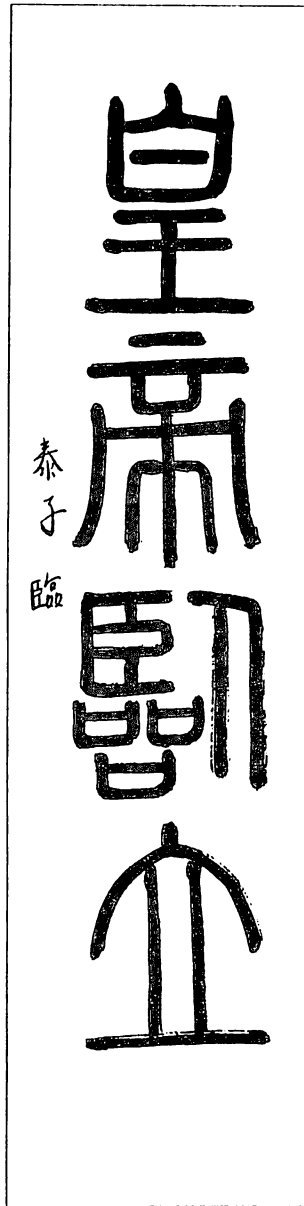
・線質や字形の取り方等は、この調子でよろしいが、少し横巾を短くすると良い。

《第7時限》

A-⑧



B-⑧



C-⑧



・本字学習、潤濁遅速については達成されている。この調子で頑張りなさい。

・本時の目標、遅速・潤濁は到達したと思う。この調子で頑張りなさい。

・以前よりもかなり上達された。後は、全体のまとめ方がうまくいくと更に

4. 実践後の考察

(1) 生徒の感想

- ・一字を全て同じ太さ（等圧）に書くのが難しかった。
- ・左右対称に点画を配置するのが難しかった。
- ・集中しなければなかなか書けなかった。
- ・一本の線を引く難しさを感じ取った。
- ・墨継ぎをしないで、二字続けて書くことがなかなかできなかった。
- ・速く書けなかった。

(2) 授業者の感想

- ・書けない、書けないと文句ばかり言いながらも、よく書いていた。
- ・今までの書体とかなり違うと感じたのか、各々が静かに集中し取り組んでいた。
- ・これまでちょっと書いて終えていた生徒も、真面目に時間をかけて書いていたのは驚いた。
- ・細部における用筆等を口頭で説明するより、個人指導や数人のグループを集めて示範揮毫するほうが効果的であった。
- ・示範揮毫の後、何とか書き上げようとする努力が感じられた。
- ・この単元を取り扱うにあたり、あれもこれもと考えていたが、学校行事等のため授業が中断したりして、生徒の意識を持続させるのが困難であった。1単位授業の難しさを、再確認した。

5. おわりに

単元設定にあたり、到達させたいと考えたことは、ほぼできたように思う。特に、等圧・等速、ゆるやかに線を引く等に関しては、練習を重ねるごとに全員良くなってきた。このことは、目標を最小限に絞ったことにあるのではないかと思われる。これからも、指導法について工夫し研究していきたい。

張猛龍碑に魅せられて

石川県立水産高等学校 教諭 嬭 喜代子

水産高校に赴任して三年目、それと共に水産高校小木分校に兼務として週一回通うことになった。前任校の飯田高校も設備は不十分で普通の教室を書道室として使用するだけだったが、小木分校はそれ以上に条件は整っていない。授業にいつも使う教室で、好むと好まざるとにかかわらず生徒は全員書道をさせられる訳で、県下でも有名な元気な学校であるから大変やり甲斐のある仕事である。二単位のみ履修で、授業は二時間続きなので課題を決めて練習、清書をさせるのにも工夫が必要であり、また清書が多いので事後の処理にもかなりの労力を必要とする。一学期初めは無気力であり、何ら興味も関心も示さず投げ遣りであった生徒が、一学期の次第にひたむきに書くようになったことは、普通の教科では得られない喜びであろう。

私が前任校からずっと実行してきたことは次の三つである。

1. 生活に応用できる書を心がけること。
2. 墨汁をつかわないで、墨をすらせること。
3. 自ら学び、それによって生徒を導くこと。

1. の「生活に応用できる書」とは、社会全体がスピードを競い、便利さを求めるという流れの中で「なぜ書なのか？」と考えた時、書のもつ格調の高さ、やすらぎ、ゆとり、教養、文化というものがあるからであろうと思う。だからペン字のハガキの書き方、封筒の書き方をはじめ、生活の中でさりげなく飾ることのできる短冊や色紙などを書かせ、文化祭等で展示して発表することにより、少しでも書の喜びを味わえるようにしている。

2. の「墨汁をつかわない。」というのは、小中学校では仕方がないことであると思うが、高校は「芸術科書道」であるから、新しい水を入れ、心を落ちつかせて墨をすり、微妙な墨色を感じさせたりするのに必要であると思いつつ実行している。初めは不審な顔をしながらも、真面目に墨をすっている姿を見るとつい嬉しくなってくる。いつも「お茶と同じように新しい水を入れ、嬉しいことや悲しいことや、つらいことを墨をすりながら溶かしていくと心が落ちつきますよ。私はいつもそうしています。」という納得したりする子がいて、照れることもある。今年の初夏、「里芋にたまった露を集めて墨をすると字が上手になるそうです。」と言ったら、女子生徒が六月の終わりに、「もうすぐ先生が言った七月七日の朝が来るから、里芋の露を持って来ようよ。」と言うので、ちょうど分

校へ行く日が七月七日であったので、朝五時に起きて露を集めに行った。五時は遅いのか、下へ落ちて少ししかなかったが、学校へ持って行った。生徒の露と集めて「上手になる露です。」と硯の中へ少しずつ入れてやったりすると、普通の教科では味わえない生徒との心の交流を見い出したりする。

3. の「自ら学ぶこと。」であるが、私は大学の四年間、主に王鐸を学び、他に仮名に良いというので楷書は雁塔聖教序を教えてください、ともかく静かなもの、おとなしいもの、繊細なものを好んで学んだ。顧問の先生は北魏の楷書、とりわけ張猛龍碑が得意であったが、あの激しさにはついてゆけず、黙々と自分で仮名を練習したりしていた。卒業して長いブランクを経て、つきあげてくる書への思いについに再び師についた。以前学んだ王鐸で作品を書いていたが、様々な試練に耐えていた時、王鐸の軽やかな動きについてゆけず、筆を投げ捨てたくなる程であった。その時あんなに嫌悪を感じていた張猛龍が心の中に大きな位置を占めていた。見よう見まねで書き始め、心は張猛龍になり切ってはいるものの紙の上の字は九成宮である。一つの字を習得するには三年かかると言われている。今の私はおそらく十年はかかるであろうと思うが、これから張猛龍と共に激しく、強く、たくましく生きていきたいと思う。折にふれ生徒に今書いているものを見せたり、やっている事を話したりすると予想以上に反応を示してくれた。

思うに、書道の授業とは技術を教えることもあるが、教師の生き方、ものの考え方、ひいては書の心も教えることであるとおもう。だから机と椅子しかなく、大きな生徒が40名もいて、机間巡視もままならぬ条件の中で、ひたすら生き、学ぶ姿勢を示し続けたいと思う。そして、「書とは悲しいことも、苦しいこともみんな受け入れてくれる、素晴らしい芸術ですよ。」と言い続けることであろう。表現することは苦しみも伴い仕事との両立は大変である。いつか張猛龍である字が書け、そして穏やかにまた王鐸が書けるように生徒と共に歩み続けたいと思う。

終わりに一年間の大まかな指導内容を書いておきます。

一学期

4月	ペン習字による漢字の結構法の学習		
5月	楷書への導入として隸書の学習		
	楷書	九成宮醴泉銘	} 二つの書風の相違
		孔子廟堂碑	
6月	行書の基礎	集王聖教序、蘭亭序など	
7月	行書の創作	色紙への準備として	

二学期

- | | | |
|-----|--------|-------------------|
| 9月 | 仮名の練習 | 単体から連錦を経て作品へ |
| 10月 | 仮名の応用 | 短冊、色紙の練習、文化祭に出品準備 |
| 11月 | 調和体の練習 | |
| 12月 | 年賀状の練習 | |

三学期

- | | |
|----|------------------------------|
| 1月 | ハッ切による書き初め、ハガキ、封筒、履歴書の書き方と練習 |
| 2月 | 色紙に書く書体、字の決定と練習 |
| 3月 | 色紙作品完成（一年間の総仕上げとして） |

寸松庵色紙の諸要素

金沢大学教育学部四年 荒木理恵子

1. はじめに

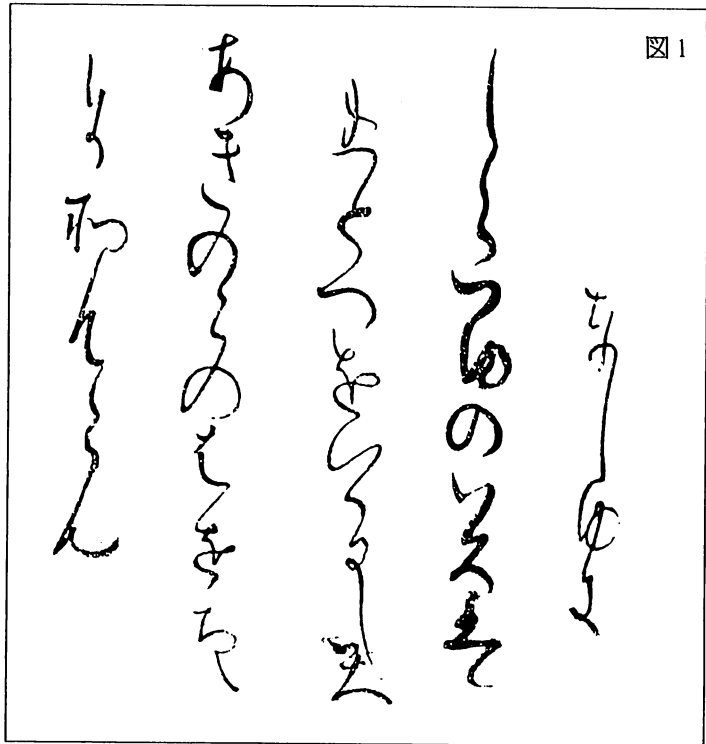
高等学校の書道で仮名に興味を持ち、大学で書を学ぶ中で多くの古筆の存在を知った。中でも、寸松庵色紙の空間処理と散らしの美しさに強く引かれ、東京国立博物館の特別展で本物を目にして以来、その魅力のとりこになってしまった。どこにそのすばらしさがあるのか、自分なりに追求してみたいと思っている。

現在、散らしの形式や連綿法について分析しているところだが、ここではその概略を示し、さらに、興味を引かれている北畑観瀾氏の、寸松庵色紙の筆者についての論を紹介したい。

2. 寸松庵色紙の背景と特色

三色紙の一つとして継色紙（伝小野道風）・升色紙（伝藤原行成）と共に推賞されている寸松庵色紙は、紀貫之が書いたものと伝えられているのは周知の通りである。まず、簡単に寸松庵色紙の背景と特色についてまとめる。

この色紙は、泉州・境の南宗寺（大徳寺派）の襖に三十六枚貼ってあったもので、そのうちの十二枚を佐久間将監実勝（直勝とも伝えられている）が手に入れ、一枚ごとに歌意を書いた扇面を作り、帖に仕立てて愛玩した。佐久間将監は別名、寸松庵山隠宗可と言い、織部流の茶道の達人である。寸松庵というのは京都・紫野大徳寺の塔頭に建てられた茶室のことで、これを建立したのが佐久間将監であった。彼が所蔵していたことから寸松庵



色紙と呼ばれ、やがて十二枚以外のものも、そう呼ばれるようになった。茶人に好まれる要素を供えたが故に、茶を介して南宗寺から出た寸松庵色紙であるが、南宗寺以前のこと、そして寸松庵以後のことは明らかではない。

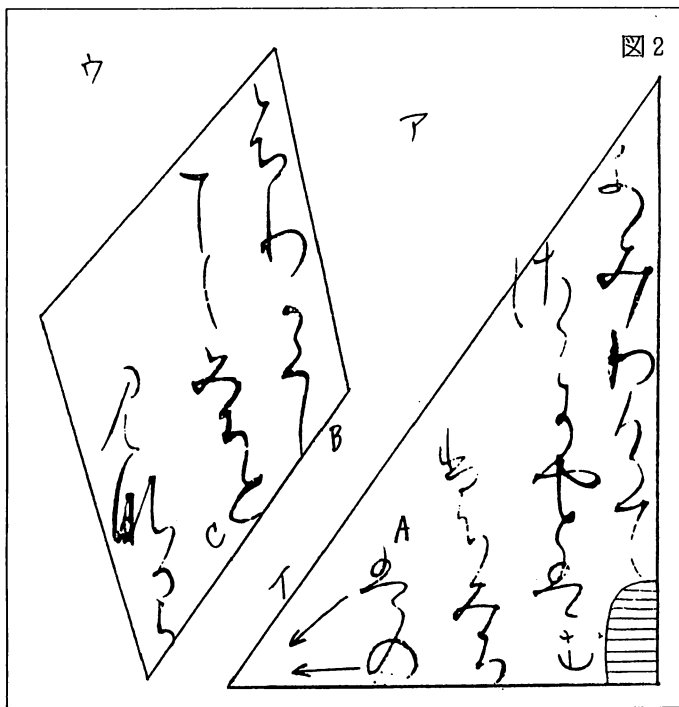
さて、色紙とは言うものの、本義の色紙ではなく、各本紙の左右どちらかに糊付けの跡が見られることから、もとは粘葉装の冊子本であったことがうかがえる。内容は現存する全てが『古今和歌集』の四季の部分から、原則として作者名と和歌一首を書写したものである。

ここで注目したいのは、「しらつゆの・・・」（図1参照）の表面に、次にくる「あきかぜの・・・」が逆文字になって写っていること、同様に、「ちはやぶる・・・」と「あめふれば・・・」が互いに写り合っていることである。これらの歌は、古今集の中で連続配置されていることから、もともとは古今集の四季の部すべてを書写したのではないと思われる。また、文字が逆さに写り合っていることと、のりしろの位置から、見開きの内側すなわち表にのみ書写し、裏側には書写しない「内面書写」の形式をとっていたことが分かる。これは、継色紙にも共通する。

料紙は、布目打ちのある唐紙七色に、雲母で亀甲など八種の文様を摺ったもので、同種の唐紙に書かれた古筆（粘葉本和漢朗詠集など）から判断すると、この色紙の書写年代は、十一世紀後半と推定される。

3. 寸松庵色紙における散らし書き

現存の寸松庵色紙のうち、田中氏複製本の三十枚中、二十六枚が上下句不分割の形式をとり、これはさらに①高低式、②遡下式、③混合式に分類できる。上下句が分割されているのが四枚で、④左右分裂式、⑤右下左上分裂式、⑥上下分裂式に分類できる。もう一つ、⑦虚実分裂式があり、これらの形式ごとに特徴がある。ここではその中から、上下句分割・右下左上分裂式の「ふみわけて・・・」について説明したい。（図2参照）



(1)上の句の扱い

上の句は右下に位置し、四行に分割されて右下に直角を持つ三角形を描いている。直角三角形は安定感を生み、ここが散らし書きの骨組みとなる。しかし、実際には一行目の行尾が空いており、三行目の書き出し位置が下がっているなど、明らかな直角三角形として現れてはいない。ここには、直角三角形の持つ精神だけを取れば充分であるという、省略の心が働いている。この、虚の効果と見る者への補充の余地が、散らし書きの精神であるように思う。

(2)下の句の扱い

右下に厳然と占めた上の句に対して、下の句は「副」の役割を果たす。概形は菱形をとるが、上の句の場合と同様、二行目と三行目の行間に変化を与え、あらわな表現を和らげている。菱形の脚部を引き締め、右へ傾けることによって、「主」に寄り添っている。

(3)上の句と下の句のつながり

図中A「は」とB「し」、C「と」の三者の關係に注目したい。「と」の終筆の方向が「し」に密接し、二者が一体となって「は」に対している。この部分が、上の句と下の句を交渉させ、分離するのを防いでいるといえよう。

また、よく言われることであるが、各行ははるか右下の一点に集合するようになっていて、ちょうど扇の左半分を思わせる。仮名の特徴である中心移動の連綿法によるものであろうが、自然にこなすのは至難の業である。この要素は、左右の群の分離のみならず、一行一行そのものがバラバラになるのを防ぐ重要な働きをする。行尾が舟底型の曲線を描くことも、全体の統一に働くと思われる。

(4)空間の形成

散らし書きの中で、空間の持つ意味は大きい。この色紙を見ていると、まるで磁力線のような空気の動きを感じる。アの空間は最も広く占めているが、先端がA「は」の附近にあり、ここが力の集合点かつ発生源となっている。イの空間はB「し」を頂点とする三角形で、このBの附近に力を凝集し、かつ開放している。ウの空間は左方へ進む余地と考えられ、紙面から外へ向かう力の分散を殺さない。これら、空間の活躍が、限られた紙面の中にエネルギーを生む要因であろう。

以上、(1)から(4)まで考察してきたが、他にも墨色など様々な要素が複雑にからみ合っている。しかし、それを直接感じさせることなく、立ちのぼる陽炎のような生氣と丸味のある外形による穏やかさを合わせ持っているのである。

ここでは、一例を挙げたに過ぎないが、一枚一枚に緻密な工夫が仕込まれている。それらを自分なりに見出していけたら、と思う。

4. 寸松庵色紙の筆者

さて最後に、寸松庵色紙の筆者について考えてみたい。「伝紀貫之」と言われてはいるが、現在までの研究から彼の没年は945年であると知られている。この頃、前出の

唐紙が伝わっていたかどうかは疑わしい。

貫之は、『古今和歌集』の編者であり、仮名序の筆者でもある。書写内容が古今集の歌であったために、筆者として掲げられたものであろう。貫之に仮名の真跡が残されておらず、寸松庵色紙の書体自体が他に類例を見ない特徴を持つものであったために、都合良く引き出されたようだ。従って、「年代、筆者ともに謎である」という定説が通用してきたのであろう。

北畑観欄氏は、著書『「寸松庵色紙」の筆者』の中で、書写したのは藤原佐理であるとして、検証している。以下、その検討内容を紹介する。

(1) どの一枚を対象とするか

寸松庵色紙は全部で三十六枚あるいは四十三枚存在すると言われているが、最初の現物の在り処である寸松庵にあったものは十二枚とされる。この十二枚がどれであったかが重要な手掛かりとなる。今日、現存するものとして見ることのできる三十数点は、全て最初の実物そのままとして目にすることができる訳ではない。氏は、臨書されたもの、修正されたものなどを考慮して、使用されている用紙と書体が同一か否かの点から選別し、八枚を対象としている。

(2) 漢字から仮名への関連

漢字の消息類と仮名については、同一筆者によるものならば、行の傾きや行間のバランス、余白の安定、運筆のリズムの表情などが符合すると思われる。また、仮名最大流行期の十一世紀になると、行の傾斜は意図的な遊びとなり、字間は優雅さを意識して間伸びが常態となる。このような時代の推移による美的感覚の流れにも留意している。

(3) 漢字の草体と平仮名

小野道風の真跡『屏風土代』『玉泉帖』等消息は、行草体に混じって細線の単純化された草体を見いだすことができる。さらに、次代の藤原佐理の『離洛帖』『恩命帖』『国申文帖』等、真跡とされる消息では、単純化された草体は完全に平仮名へ変貌している。一方、日本式平仮名とは無縁な中国での筆跡にも、仮名として読むことが充分ありうる草体がある。氏は、これが中唐・顔真卿の『守双帖』『裴將軍詩』などの書中に見られると述べ、平安貴族として名門の佐理や道風がこの唐文化を吸収したはずだが、特に佐理には、顔真卿の影響が多く見られる、とする。

(4) 藤原佐理の真跡

佐理には「伝」として、仮名の『筋切』『紙捻切』『綾地歌切』等がある。氏は、『詩懷紙』『離洛帖』『恩命帖』『国申文帖』『頭辨帖』『去夏帖』等が佐理の真跡であるとして、寸松庵色紙と比較している。具体的には、寸松庵色紙と藤原佐理の真跡の中から二者酷似のものを選び出し、このうちで、明瞭に見分けられること、他の平安時代古筆中に類例を見ないものであることを基準に、十種の文字を材料として示している。

(1)から(4)より導かれた十種の文字のうちから、ここでは三種を示す。

① お・於 (図3参照)

終画の点へあがる力が強く、切れないように吊り上げ、非常に高い位置に懐広く曲線を描いて伸び、点を打つ。

② む・奴 (図4参照)

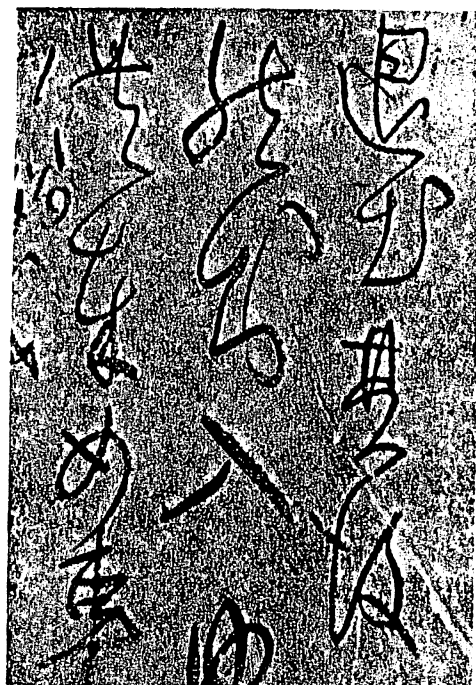
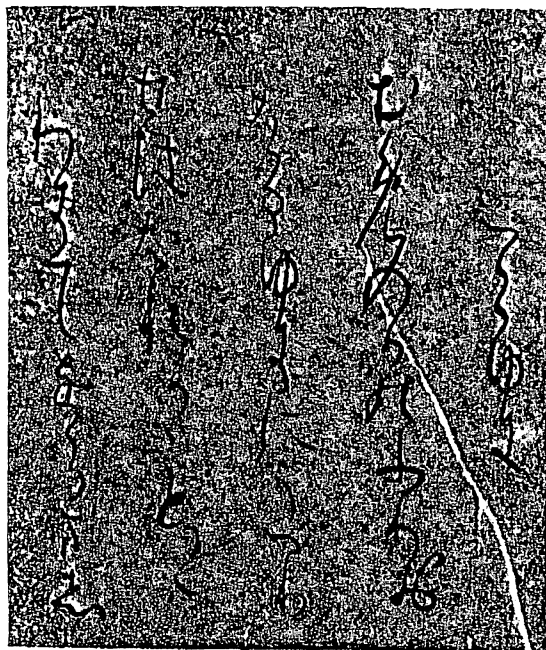
結びの終画は、弧を描いて引き寄せた鋒先を返すだけで、空間の穴は開けない。

③ し(志)・恐 (図5参照)

「心」の終画を強く締めくくる意図をもって、内側にすくい上げて終わる。

以上から北畑氏は、寸松庵色紙の筆者は藤原佐理で、成立年代は十世紀後半であるという結論を導き出している。

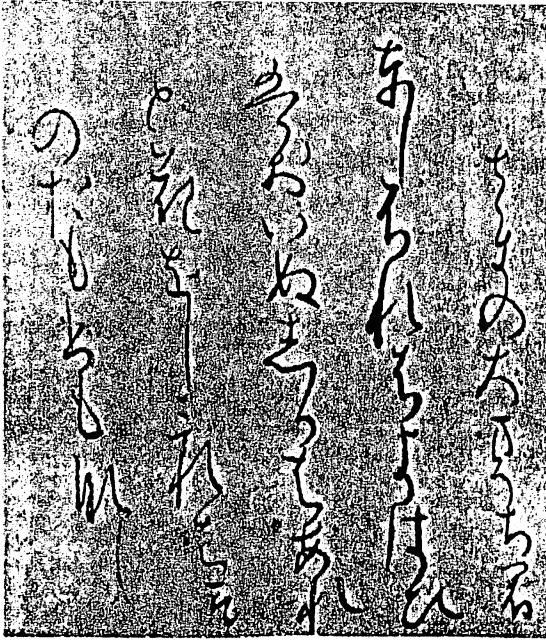
図3



【国申文帖】



図4



【寸松庵色紙】



【恩命帖】

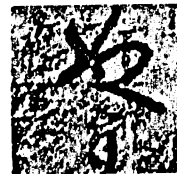
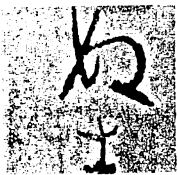
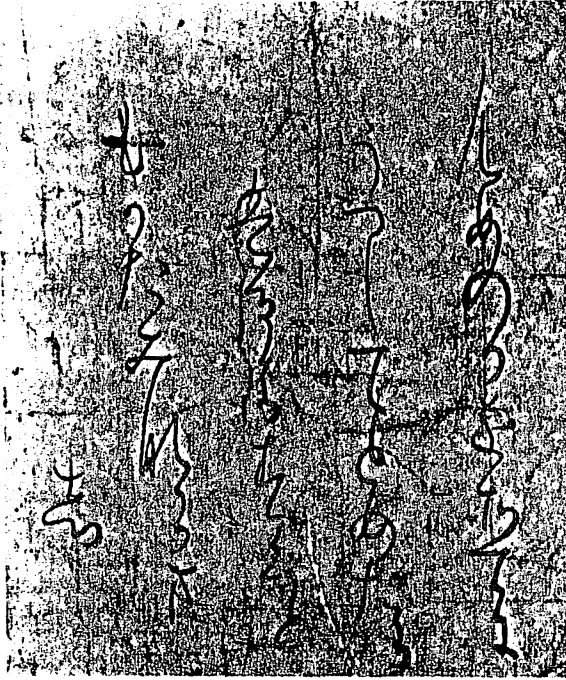


図 5



【寸松庵色紙】



【国中文帖】



5. おわりに

散らしの形式を一つ一つじっくり見ることによって、私は、この書をつくり上げた人物にただ敬服の念を抱くばかりである。あるいは私の理解は、後から見る者のこじつけにすぎず、筆者はどこかであきれているのかもしれないが。また、北畑氏の検証を見ると、佐理が書いたのだとする説に大きく心を動かされるのである。

今後は、自分なりに氏の検証を追試し、他の筆者を考えることはできないのかという疑いも含めて、さらに寸松庵色紙の魅力に近付いていけたら、と思う。

参考文献

『寸松庵色紙』の筆者	北畑観欄之	平成3年1月26日	角川書店
かな古筆美の研究	安東聖空	1981年12月5日	同朋舎
日本名品叢刊	二玄社		
書道藝術 日本名品集	中央公論社		

平成4年度各社書写教科書の比較

－平成元年度学習指導要領と「学習のめあて」－

金沢大学教育学部3年 角島幸子 出雲崎貴子 馬橋香織
唐津清美 塩田由香

1. はじめに

平成元年度の学習指導要領の改訂にともない、小学校書写の教科書も平成4年度から新しくなった。多くの出版社から教科書が出版されているが、教育現場において個々の教員が各社の教科書を一同にそろえて比較検討する機会は少ないのではないかとと思われる。そこで私たちはその比較検討をおこない、各社の工夫及び傾向を分析してみることにした。比較検討するための着眼点は多くあるわけだが、その中から今回は学習指導要領と深く関わるとと思われる教科書冒頭の「学習のめあて」について調べてみることにした。本来、「学習のめあて」に関する考察も、教科書の内容との関わりなくしてはなされないものであろうが、今回は「学習のめあて」を独立させて考察している点をあらかじめお断りしておく。

2. 分析の方法

分析の方法として、まず学習指導要領の国語科「書写に関する事項」文章中の語句をキーワードとしてa, b, c, d…という記号をつける。そして、各社の「学習のめあて」にそのキーワードが含まれているかを調べた。なお、調べる学年として毛筆を用い始める3年生と、6年生の教科書を対象とした。

以下、学習指導要領とキーワードとした語句を示し、その後各教科書の「学習のめあて」を載せ、考察を行うという順番で分析を行った。

3. 第3学年の分析と考察

〔学習指導要領〕

- (ア) (a)姿勢や(b)用具の持ち方に注意して、(c)筆順に従って文字を(d)正しく書くこと。
- (イ) (a)文字の組立て方に注意して、(b)文字の形を整えて書くこと。
- (ウ) (a)毛筆を使用して、(b)点画の始筆、送筆(折れ、曲がりなど)、終筆(とめ、はね及びはらい)などの筆使いに注意しながら、文字を(c)丁寧に書くこと。
- (エ) (a)毛筆を使用して、(b)点画の長短、方向などに注意しながら、文字を(c)正しく書くこと。

〔学習のめあて〕

(ア)

A社：しせいや用具（えんぴつ、筆など）の持ち方に気をつけて書きましょう。

B社：（毛筆）しせいや筆のもち方

（硬筆）しせいやえんぴつのもち方 筆順

C社：しせいや用具の持ち方に注意して、正しい書きじゆんで書きます。

D社：しせいや用具のもち方に注意し、ひつじゆんにしたがって、文字を正しく書きましょう。

E社：用具を正しく持って、よいしせいで書きましょう。筆じゆんに気をつけて、文字を正しく書きましょう。

F社：（硬筆）文字を書くしせいや用具の持ち方に注意して、筆じゆんにしたがって、文字を正しく書きましょう。

(イ)

A社：硬筆を使って、文字の組み立て方に気をつけて、字形をととのえて書きましょう。

B社：（硬筆）文字の組み立て方と形のととのえ方。

C社：文字の組み立て方に注意して、形を整えて書きます。

D社：文字の組み立てに気をつけて、文字の形をととのえて書きましょう。

E社：文字の組み立て方に気をつけて、形を整えて書きましょう。

F社：（硬筆）文字の組み立て方に注意して、文字の形を整えて書きましょう。

(ウ)

A社：筆使いに気を付けて、文字をていねいに書きましょう。

B社：（毛筆）筆使い

C社：毛筆を使って、始筆、送筆、終筆の筆使いや点画の長さや方向に注意して、ていねいに書きます。

D社：毛ひつを使って、しひつ、そうひつ（おれ、まがり）、しゅうひつ（とめ、はね、はらい）などに気をつけて、文字をていねいに書きましょう。

E社：筆を使って、筆使いや点画の長さ、方向などに気をつけてていねいに書きましょう。

F社：（毛筆）点画の始筆・送筆（おれ・曲がりなど）・終筆（とめ・はね・はらい）などの筆使いに注意して、文字をていねいに書きましょう。

(エ)

A社：筆順や点画の長さ・方向などに気をつけて、文字を正しく書きましょう。

B社：(毛筆)点画の長短・方向

C社：(ウ)に含まれる)

D社：毛ひつを使って、点画の長たん、方向などに気をつけて、文字を正しく書きましょう。

E社：(ウ)に含まれる)

F社：(毛筆)点画の長短・方向に注意して、文字を正しく書きましょう。

【考察】

まず、以上を表にまとめてみる。

(◎詳しい ○その通り △いいかえ、もしくは足りない ×抜けている)

(ア)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	姿勢	○	○両	○	○	○	○硬
b	持ち方	◎	◎両	○	○	○	○硬
c	筆順	(I)	○硬	△	○	○	○硬
d	正しく	(I)	×	×	○	○	○硬

(イ)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	組み立て	○硬	○硬	○	○	○	○硬
b	形を整え	○硬	○硬	○	○	○	○硬

(ウ)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	毛筆の使用	×	○	○	○	○	○
b	始筆送筆終筆	△	△	△	○	△	○
c	丁寧に	○	×	○	○	○	○

(エ)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	毛筆の使用	×	○	○	○	○	○
b	点画の長短方向	○	○	○	○	○	○
c	正しく	○	×	×	○	(7)	○

硬筆・毛筆の限定について、まとめておく。F社では、学習指導要領の(ア)(イ)の項目を硬筆に限定している。A社が(ア)(エ)の項目に硬筆毛筆のことわりがないのに対して、F社の(ア)では硬筆、(エ)では毛筆にあてていることになり、学習指導要領の解釈に差異を生じさせる部分といえよう。またB社では、硬筆と毛筆の二項目に分け、その両項目ともに「姿勢」「持ち方」をあげており、B社の場合もA社の解釈と同様に考えられる。

残りのD社・C社・E社では、(ウ)(エ)に「毛筆を使って」などの前置きがあるものの、(ア)(イ)に硬筆・毛筆のことわりがない。ここでは、(ア)(イ)に硬筆毛筆両方という解釈と、硬筆のみという解釈の二通りが可能である。実際に、教科書の内容を確認してみる。(ア)－(a姿勢b持ち方)については、硬筆については写真のみであり、毛筆中心にかなり詳しく説明されている。それに対して、(ア)－(c筆順)・(イ)－(a組み立てb形を整え)は、どちらかという硬筆中心である。これは、三学年からはじめて毛筆を取り扱うことから、基礎を重視しているためと考えられる。毛筆ではそこまでの段階に達していないため、筆順・文字の組み立て・形を整え、は硬筆中心にしているのではないか。結果として、三社の教科書はめあてだけ見ても硬筆・毛筆の区別がわからないが、実際には硬筆毛筆両方という解釈でどちらかにウエイトがかかっているわけである。

つぎに、めあての表現方法についてまとめておく。各社とも、基本的に学習指導要領の内容にそつためあてを立てている。特色あるものとしては、B社のみ、文章化せず語句をならべている。他社では、E社が学習指導要領の(ア)の文を二つにしていること、E社とC社は学習指導要領の(ウ)(エ)の文を一文にまとめていることが目につく。D社A社F社の教科書では、学習指導要領の内容をほぼそのまま使っているが、中でA社は学習指導要領の(ア)(イ)(ウ)(エ)を、(ア)(エ)(ウ)(イ)と順番をかえている。

最後に、解釈の相違がある部分について触れておく。C社の「正しい書き順で書きます」は、他社の「筆順に気を付けて文字を正しく書きましょう」などとは、解釈が異なると思われる。前者で正しいのは筆順のみ、後者では筆順と字体などに「正しい」が対応すると考えると、見逃しがちな細かい部分に相違があることに気付かせられる。

4. 第6学年

〔学習指導要領〕

- (ア) (a)文字の形、大きさ、配列などを(b)理解して書くこと。
- (イ) (a)毛筆を使用して、文字の(b)組み立て方を(c)理解しながら文字の(d)形を整えて書くこと。
- (ウ) (a)毛筆を使用して、文字の(b)大きさなどに注意しながら、(c)字配りよく書くこと。

〔学習のめあて〕

(ア)

- A社：文字の形、大きさ、配列などのよさがわかり、硬筆で、目的に応じて書けるようにしましょう。
- B社：硬筆－文字の形 文字の大きさ、配列
- C社：文字の形や大きさ、配列をよく理解して書きます。
- D社：文字の形、大きさ、配列などに注意して書きましょう。
- E社：文字の形、大きさ、配列などを考えて書きましょう。
- F社：硬筆－文字の形・大きさ・配列などに注意して書きましょう。

(イ)

- A社：文字の組み立て方がわかり、字形を整えて書けるようにしましょう。
- B社：毛筆－文字の組み立て方
- C社：毛筆を使って、文字の組み立て方を理解して、形を整えて書きます。
- D社：毛筆を使って、文字の組み立て方を理解しながら、字形を整えて書きましょう。
- E社：筆を使って、文字の組み立て方を考えながら、形を整えて書きましょう。
- F社：毛筆－文字の組み立て・形・大きさなどに注意して、字配りよく書きましょう。

(ウ)

- A社：文字の大きさに気をつけて、字くばりよく書きましょう。
- B社：毛筆－文字の大きさ、字配り
- C社：毛筆を使って、文字の大きさに注意して、字配りよく書きます。
- D社：毛筆を使って、文字の大きさなどに注意して、字配りよく書きましょう。
- E社：筆を使って、文字の大きさなどに気をつけながら、字配りよく書きましょう。
- F社：毛筆－文字の組み立て・形・大きさなどに注意して、字配りよく書きましょう。
(ウと同文)

〔考察〕

以上を表にまとめておく。

(ア)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	形、大きさ、配列	○	○硬	○	○	○	○硬
b	理解して	○	×	○	△	△	△硬

(イ)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	毛筆を使用して	×	○	○	○	○	×
b	組み立て方	○	○	○	○	○	○
c	理解し	○	×	○	○	△	△
d	形を整えて	○	×	○	○	○	○

(ウ)

		A社	B社	C社	D社	E社	F社
a	毛筆を使用して	×	○	○	○	○	×
b	大きさなど	○	○	○	○	○	○
c	字配りよく	○	○	○	○	○	○

(ア)の文のa(形・大きさ・配列)に関しては各社ともに書かれているが、b(理解して)では記述に違いがみられる。B社は、第三学年と同様に、語句で端的に表現されている。D社・F社は「理解して」が、「注意して」に、E社では「考えて」に言い換えられている。学習指導要領の第6学年では、文字の書写的要素を「理解」することがねらいとされており、「注意して」や「考えて」とは、ニュアンスが異なる気がする。

(イ)の文のa(毛筆の使用)は、A社に書かれていない。また、B社とF社は、文章としてではなく、最初に「毛筆」「硬筆」という項目を立てて、はっきりした区別をしている。b(組み立て方)については、各社ともに記述がある。c(理解し)については、前述の通りB社は文章化されていないため記述がなく、F社は「注意して」に、E社は「考えながら」に言い換えられている。学習指導要領の「理解」と微妙に違ったニュアンスを持つ。各社がこだわって、意図的に言い換えたのだろうか。d(形を整えて)に関してB社に記述がないが、これは後述するが(イ)(ウ)に対応する文が、一つにまとめられているためかと考えられる。

(ウ)の文のa(毛筆の使用)については、(イ)とおなじである。b(大きさなど)については、各社ともに書かれている。c(字配りよく)については、B社は単に、「字配り」と書いてあるだけである。教科書はあくまで教師が指導するための資料であるという考え方からすると問題はないが、児童がこのめあてのみを見るだけで理解するには、「字配り」という語の難易性も考慮すると、難しいかもしれない。

全体を通して、A社は姿勢や用具の持ち方について触れていること、また「硬筆で目的に応じて」、などの記述があり、独自性が感じられる。毛筆で学んだことを硬筆に生かしていこうとする主旨とも捉えられる。F社は、学習指導要領の文のそれぞれに対応するのではなく、ある程度まとめた上で、学習のめあてを設定している。

4. 学年を通しての出版社別傾向

E社、C社、D社は、ほぼ学習指導要領通りに学習のめあてが書かれている。F社では学習指導要領の文のそれぞれに対応するのではなく、ある程度まとめた上で学習のめあてを設定している。A社は学習指導要領にない文をを付け足したりするなど独自のものになっていて、工夫が見られる。B社はあえてめあてを文章化していないところに工夫があるといえよう。

5. まとめ

このように分析をしてきたが、この過程で前述のものも含め、次のようなことが明らかとなった。

めあての中に、毛筆・硬筆の区別がきちんとされているものや曖昧なもの、またほとんどなされていないものがある。今回の学習指導要領の改訂以後硬毛関連がひとつのポイントになっているが、それにつけても注目すべき点であると思われる。しかし、あえて硬筆の区別のある会社には別の意図があるのであろう。硬毛関連と一言でいっても、第3学年の毛筆の運筆・用筆法など学習内容によってはある程度の区別が必要な部分もあるのではないだろうか。

第二にこの分析の中で、各社のめあての内、学習指導要領とそっくり同じであるものが目についた。学習指導要領は教師に対して作られたものであり、学習のめあては児童に対してのものと考え、この二つが同じ表現であることに疑問を感じる。

これと関連してそのめあての表現法の相違があげられる。生徒がそれを見ただけでは理解できないだろう、もしくは不明瞭である表現がある。学習指導要領の語句をそのまま並べたためにそのようになったのだろうか。また、学習指導要領と少しニュアンスをかえても、工夫している教科書もある。学習指導要領の表現をそのまま用いていることについて、学習指導要領に忠実なのは安心できることだが、学習のめあてが誰に対するものかを考えたとき疑問が残る。この点に関しては、教科書の目的とも関連するだろう。極端に言えば、児童が教科書を見るだけでできるだけ理解しやすいものであるべきだとする考えと、授業を行うのは教師であり教科書はあくまでその補助的存在であるとする考え方とがあるであろう。いずれの考え方にたって教科書を作成するかということは、教育現場の実態や要望との関係であろう。

6. おわりに

今回私たちは、各社の教科書について学習のめあてのみの分析をおこなった。これだけでも、各教科書の傾向を感じる事が出来たし、また更なる疑問も生まれてきた。内容の比較や、改訂前の教科書との比較をすることで、その差異をさらに明確にすることができると思う。今後、それらについても取り組んでみたい。

大会經過報告
大会役員一覽
連盟規約

12. 1 第1回理事会〔金沢商業高等学校〕
 (第1回石川県書写書道教育研究大会を金沢市にて開催することを決定)
- 12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号)発行
- 1990.10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号)発行
 (平成2年)
- 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会
 [金沢市立南小立野小学校/野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
 ・公開授業(小学2年・中学1年・高校1年)
 ・記念講演「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
 久米 公先生(文部省祝学官・千葉大学教授)
 第3回理事会(第2回大会を野々市町にて開催することを検討する)
1991. 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号)発行
 (平成3年)
6. 4 第5回理事会〔金沢商業高等学校〕
 第2回石川県書写書道教育研究大会要項決定
- 10.30 『石川県書写書道教育』(第4号)発行
- 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会
 [野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
 ・公開授業(小学校1年・6年)養護学校(学校公開/クラブ活動等)
 ・記念講演「児童生徒の心をひきつける具体的な指導法」
 楨木湖山先生(帝京大学教授)

第3回石川県書写書道教育研究大会経過報告

1992. 3. 6 第25回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- (平成4年)3.26 第7回理事会〔金沢ガーデンホテル〕
 (第3回大会を金沢市立鳴和中学校にて開催することを決定)
- 3.30 『石川県書写書道教育』(第5号)発行
- 4.24 第26回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- 5.14 第27回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- 5.28 第8回理事会〔金沢中央高等学校〕
 第3回石川県書写書道教育研究大会要項決定
- 6.10 研究集録誌上発表原稿依頼
- 6.26 第28回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- 6.29 第3回石川県大会第1回実行委員会〔金沢中央高等学校〕
- 9.11 第29回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- 9.20 第1次案内発送
10. 8 静岡市立宮竹小学校・南中学校研究発表会(全日本書写書道教育研究大会)6名参加
10. 公開授業学習指導案検討される
- 10.25 第2次案内発送
- 10.30 『石川県書写書道教育』(第6号)発行
- 10.31 第30回石川県書写書道教育懇談会〔金沢中央高等学校〕
- 11.17 第3回石川県大会第2回実行委員会〔金沢市立鳴和中学校〕

平成2年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 南和男<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清
参与 吉田一郎

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>

会副

[石川県教育委員会学校指導課長]	小西 優
[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
[金沢市中学校教育研究会習字部長]	松寺淳照<金沢市立森本中学校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部長]	三宅正敏<県立七尾高等学校長>
[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小学校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>

理事長 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任
副理事長 : 幼・保部 : 嘉門久直<森本幼稚園長>
: 小学校部 : 森川登夫<津幡町立中条小学校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小学校長>
: 中学校部 :
: 高校部 : 中山武久<県立津幡高校教諭>

監事 木本峰生<七尾市立御祓中学校長> 山本穆子<小松市立粟津小学校教頭>

理事 : 県教委学校指導課 :
[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 濱 和子<七尾地方教育事務所>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫

*金沢地区

: 幼・保部 : 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部 : 林 道子<南小立野小学校教諭> 中川晃成<館野小学校教諭>
: 中学校部 : 干場和子<野田中学校教諭> 古本佳世<野田中学校教諭>
: 高校部 : 林 昭悦<金沢女子高校教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高校教諭>
: 障害児学校部 : 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

: 小学校部 : 穴田孝子<三谷小学校長> 川筋登史己<向本折小学校教頭>
: 中学校部 : 阿戸壮一郎<丸ノ内中学校教頭>
: 高校部 : 東野洋子<小松市立女子高校教諭> 北室正枝<金沢西高校講師>
: 障害児学校部 : 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

: 小学校部 : 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
: 中学校部 : 永井志津子<朝日中学校教頭>
: 高校部 : 解喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

: 事務局 : 永江芳教<金沢商高教諭>
: 副事務局長 : 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小学校教諭>
: 庶務部 : 部長・中田稚子<森本中学校教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
: 会計部 : 部長・佃さえ子<千代野小学校教諭> 副部長・西川真理<野々市小学校教諭>
: 部員 : 八田和幸<鳴和中学校教諭>
: 研究部 : 部長・北野京子<宇ノ気小学校教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中学校講師>
: 会報部 : 部長・板橋法子<河南小学校教諭> 副部長・西尾恵美子<辰口中央小学校教諭>
: 部員 : 大坂育代<湯野小学校教諭>
: 研究部 : 部長・八田和幸<鳴和中学校教諭> 副部長・北村千恵<湖北小学校教諭>
: 会報部 : 部長・大浦 努<千坂小学校教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小学校教諭>

平成3年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 肥田保久<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 水田茂良 横西 清
相参 吉田一郎

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>

副会長
 [石川県教育委員会学校指導課長] 小西 優
 [石川県私立幼稚園協会理事長] 源 通<妙源寺幼稚園園長>
 [金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小学校校長>
 [金沢市中学校教育研究会習字部長] 松寺淳照<金沢市立森本中学校長>
 [石川県高等学校教育研究会書道部長] 三宅正敏<県立七尾高等学校長>
 [石川県特殊教育諸学校校長会] 畑山節夫<県立ろう学校長>
 [石川書写の会会長] 森川登夫<津幡町立中条小学校長>
 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄
 理事長 中山武久<県立津幡高等学校教諭>

副理事長：幼・保部：
 : 小学校部： 吉田長憲<金沢市立湯涌小学校教諭> [市小教研書写副部長]
 谷村修次<小松市立蓮代寺小学校長>
 松本勝雄<中島町立瀬嵐小学校長>
 : 中学校部： 木本隆久<金沢市立北鳴中学校教諭> [市中教研習字副部長]
 木本峰生<七尾市立御祓中学校長>
 : 高校部： 林 昭悦<県立金沢女子高等学校教諭>
 : 盲・弱・養護学校部： 村本恒夫<県立明和養護学校教諭> [県特殊教育諸学校教頭会理事長]

監 事 山本穆子<小松市立粟津小学校教頭> 西野和代<天神山小学校長>

理 事 : 県教委学校指導課：
 [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 山田寿一 <七尾地方教育事務所>
 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 清水 実

*金沢地区

: 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
 : 小学校部： 林 道子<南小立野小学校教諭> 中川晃成<館野小学校教諭>
 : 中学校部： 干場和子<野田中学校教諭> 古本佳世<野田中学校教諭>
 : 高校部： 石浦義彦<金沢泉丘高校教諭> 永江芳教<金沢商業高校教諭>
 : 盲・弱・養護学校部： 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

: 小学校部： 川筋登史己<東陵小学校校長> 表 英治<東谷口小学校長>
 : 中学校部： 阿戸壮一郎<丸ノ内中学校教頭>
 : 高校部： 東野洋子<小松市立女子高校教諭> 北室正枝<金沢西高校講師>
 : 盲・弱・養護学校部： 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

: 小学校部： 福田教導<金ヶ崎小学校教頭> 濱 和子<相馬小学校教頭>
 : 中学校部： 永井志津子<朝日中学校教頭>
 : 高校部： 齋喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<富来高校教諭>

事務局

: 事務局長： 久田英夫<金沢中央高校教諭> : 副事務局長： 中川晃成<館野小学校教諭>
 : 庶務部： 部長・中田稚子<森本中学校教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
 部員・松井瑞代<大聖寺高校講師>
 : 会計部： 部長・佃さえ子<千代野小学校教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中学校教諭>
 : 研究部： 部長・北野京子<字ノ気小学校教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中学校講師>
 : 会報部： 部長・板橋法子<安宅小学校教諭> 副部長・西尾恵美子<辰口中央小学校教諭>
 部員・大坂育代<湯野小学校教諭> 老田さゆり<西南部中学校教諭>
 : 研修部： 部長・八田和幸<鳴和中学校教諭> 副部長・北村千恵<湖北小学校教諭>
 : 調査部： 部長・大浦 努<千坂小学校教諭> 副部長・宮崎聡美<宝立小学校教諭>
 部員・西川真理<野々市小学校教諭>

平成4年度 石川県書写書道教育連盟役員(敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 肥田保久<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清
参与 吉田一郎

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部教授>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	森 順治
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通<妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小学校校長>
[金沢市中学校教育研究会習字部長]	松寺淳照<金沢市立森本中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐々木弘明<県立七尾高等学校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会長]	畑山節夫<県立ろう学校長>
[石川書写の会会長]	森川登夫<津幡町立中条小学校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	押木秀樹<金沢大学教育学部講師>
理事長	中山武久<県立金沢泉丘高等学校教諭>
副理事長: 幼・保部:	
: 小学校部:	板本爽見<金沢市立中央小学校教諭> [市小教研書写副部長]
	谷村修次<小松市立蓮代寺小学校長>
	松本勝雄<中島町立瀬嵐小学校長>
: 中学校部:	松本隆久<金沢市立北鳴中学校教頭> [市中教研習字副部長]
	木本隆生<七尾市立御蔵中学校長>
: 高校部:	林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>
: 盲・弱・養護学校部:	東野秀一<県立盲学校教頭> [県特殊教育諸学校教頭会理事長]

監事 山本穆子<向本折小学校校長> 西野和代<天神山小学校校長>

理事: 県教委学校指導課:

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 山田寿一<七尾地方教育事務所>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 清水 実

*金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部: 林 道子<中央小学校教諭> 大浦 努<千坂小学校教諭>
中川晃成<館野小学校教諭>
: 中学校部: 干場和子<野田中学校教諭> 古本佳世<野田中学校教諭>
: 高校部: 石浦義彦<金沢女子高校教諭> 永江芳教<金沢商業高校教諭>
: 大学部: 北室正枝<金沢美大講師>
: 盲・弱・養護学校部:

*加賀地区

: 小学校部: 川筋登史己<東陵小学校校長> 表 英治<片山津小学校校長>
阿戸壮一郎<波佐谷小学校長>
: 中学校部:
: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高校教諭>
: 盲・弱・養護学校部:

*能登地区

: 小学校部: 福田教導<金ヶ崎小学校教頭> 濱 和子<相馬小学校教頭>
: 中学校部: 永井志津子<朝日中学校教頭>
: 高校部: 解喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<富来高校教諭>
: 盲・弱・養護学校部: 南 進<七尾養護学校教頭>

事務局

: 事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> : 副事務局長: 中川晃成<館野小学校教諭>
: 庶務部: 部長・岩田稚子<森本中学校教諭> 副部長・山口雅美<明和養護学校教諭>
部員・松井瑞代<大聖寺高校講師>
: 会計部: 部長・佃さえ子<美川小学校教諭> 副部長・西川真理<野々市小学校教諭>
: 研究部: 部長・北野京子<宇ノ気小学校教諭> 副部長・嵐雪絵<金大付属中学校講師>
部員・山田純子<蛸島小学校教諭>
: 会報部: 部長・西尾恵美子<辰口中央小学校教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中学校教諭>
部員・大坂育代<湯野小学校教諭> 老田さゆり<西南部中学校教諭>
: 研修調査部: 部長・板橋法子<安宅小学校教諭> 副部長・北村千恵<湖北小学校教諭>
部員・山沢聡美<片山津中学校教諭>

第3回石川県書写書道教育研究大会役員 (敬称略)

顧問 金子曾政 肥田保久

参与 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良
横西 清 吉田一郎

大会長 藤 則雄

副大会長 森 順治 源 通 河本隆成 松寺淳照 佐々木弘明
畑中節夫 森川登夫 押木秀樹

実行委員長 中山武久

副実行委員長 板本爽見 谷村修次 松本勝雄 松本隆久 木本峰生
林 昭悦 東野秀一

実行委員【部担当】 【企画研修部】 〇石浦義彦 林 道子

【研究集録編集部】 〇干場和子 古本佳世

【記録部】 〇永江芳教 大浦 努

【会計部】 〇青山洋子

公開授業者 八田和幸

大会事務局 【事務局長】 久田英夫 【副事務局長】 中川晃成

〇対フ 【庶務部】 〇岩田稚子 s 山口雅美 松井瑞代
s 対フ (庶務部)

【集録編集部】 〇西尾恵美子 s 北野京子 嵐 雪絵 大坂育代
(会報, 研究部) 老田さゆり 山田純子

【記録部】 〇板橋法子 s 北村千恵 山沢聡美
(研修・調査部)

【会計部】 〇佃さえ子 s 西川真理
(会計部)

石川県書写書道教育連盟 規約

第 1 条 (名 称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。

第 2 条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。

第 3 条 (目 的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所) 小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校) 障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第 4 条 (事 業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- (1) 研究会の開催
- (2) 会報の発行
- (3) 関連する学会・研究会・内外諸機関等との連絡と協力
- (4) 講演会・講習会の開催
- (5) 調査研究
- (6) その他必要な事業

第 5 条 (組 織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所) 小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。

第 6 条 (役 員) 本会に、下記の役員をおく。

会 長	1 名	副会長	若干名	理事長	1 名
副理事長	若干名	監 事	若干名	理 事	若干名
事務局長	1 名	副事務局長	若干名		

- (1) 事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長 1 名 副部長 1 名、部員 若干名をおくものとする。
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
- (2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
- (3) 役員を選出と任期は、下記のように定める。

- (I) 役員は理事会において選出する。
- (II) 役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。

第 7 条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。

- (I) 理事会は、必要に応じて、会長が召集する。
- (II) 理事会は、第 6 条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。

第 8 条 (会計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。

第 9 条 (会計年度) 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 10 条 (監査) 本会の会計は、監事によって監査をうける。

[附 則]

第 11 条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8 月 29 日 制定
平成 2 年 5 月 18 日 一部改正

中国品 〓 古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品 〓 画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目二一―二八
電話(〇七六二)六四―一八三六

光村図書版・小学校『書き方』教授用資料

書き方掛図 新発売

1年・2年各1巻 定価各9,700円(本体9,417円)
A全判 2色刷り 各巻12枚

書き方掛図(毛筆)

3年～6年各1巻 定価各12,900円(本体12,524円)
A全判 2色刷り 各巻16枚

毛筆書き方ビデオ

初級編・中級編・上級編 定価各9,500円(本体9,223円)
VHS・各巻約30分・解説書つき

「指導ハンドブック 字形と筆順」

小・中学校の漢字配当別に分類した2部構成 見やすく使いやすい
縦組みハンディーな四六判 定価1,200円(本体1,165円)

基本字体と字形のポイント 常用漢字・平仮名・片仮名全出
筆順のポイント 毛筆文字で点画の細部まで明示
各種許容形 小学校漢字の点画・字形について幅広く説明
行書体 中学校漢字について2種類揭示

発行 **光村図書出版株式会社**

発売 **光村教育図書株式会社**

〒141 東京都品川区上大崎2-19-9 電話 03-3779-0581

平成4～7年度 小学校用

東京書籍 **新しい書き方** 準拠指導用教材

毛筆掛図 3～6年 各学年1巻 B2判カード式 各20枚
各18,000円(本体各17,476円)

- 教科書の手本を拡大して、筆使い、字形、字くばり、筆順など留意しなければならない点を朱書してあるので、一斉指導に最適の教材です。
- 教科書の淡墨、連続分解写真などを拡大して、毛筆書写の基本が、視覚を通して児童に理解できるようにしました。
- 教室での取り扱いや持ち運びの便を考えて、カード式にしました。

ビデオソフト 3～6年 VHS・ベータ 各30分
各17,000円(本体各16,505円)

- 手元や穂先の拡大、スロー再生など映像の特性を十分に活用し、筆使いの基本や、字形の整え方等のポイントが視覚的によくわかるようにしました。
- 毛筆、硬筆の姿勢や用具の持ち方を3年生だけでなく、各学年で扱うようにしました。
- 画面の構成は繰り返し視聴を想定して、簡潔で平易なものにしました。

3年 筆使いの基本 4年 文字の形の整え方
5年 字形の整え方と字くばり(1) 6年 字形の整え方と字くばり(2)

参考図書

書道名言辞典 宇野雪村・西林昭一・福本雅一編著
A5判 税込7,800円

実技 書の古典 飯島春敬編
A4判 税込10,094円

書のこころ 天石東村
四六判 税込1,854円



東京書籍 北陸出張所/金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
〒920 TEL.0762-22-7581～2

好評

増刷出来!!

創業 50周年記念出版



書道基本用語辞典

「書」のあらゆる分野の用語を
1冊にまとめた書道百科辞典

↑人・作品・文房四宝・教育用語まで見出し語1200項目
↑用語の解説に興味深い余話・故事来歴を加えた読む「辞典」

■編集委員■

春名好重・杉村邦彦・永井敏男・中村 淳・西林昭一・三浦康廣
A5判上製本 フックケース入 1120ページ 図版約500点
定価 10,000円(税込)

し て ん 引 く 読 む
[詞 典 = 辞 典 + 事 典]

書の基本資料 全19巻 春名・三浦・杉村 編
250~380円(税込)
平成4年度全巻刊行



中教出版

本社：101 東京都千代田区西神田2-3-16
☎03(3263)1351 FAX03(3264)6914



第3回

石川県書写書道教育研究大会

豊かな心を育くむ

書写教育研究の御発展を祈ります。

金沢ヤマガミ共育社

個展・グループ展などにご利用下さい

筆・墨・紙・硯・額縁
書道用品卸

文房四宝 絃 貴 堂

〒921 金沢市伏見台1丁目1-1 ☎ (0762) 80—2298

文部省認定

公的資格を取ろう!!

硬筆書写検定 毛筆書写検定

◆願書受付…12月10日～1月22日

- 試験日 (同日実施)
 - ◎平成4年度第3回…平成5年1月30日(土)
 - 硬筆 (午後1時)
 - 毛筆 (午後3時)
- 試験期日
 - 第1回 毎年6月第3日曜
 - 第2回 毎年11月第3日曜
 - 第3回 毎年1月最終土曜
 - (第3回は、2、3、4級の単独会場のみ実施)
- 受験資格 制限はありません。硬筆と毛筆両方受験できます。
- 検定の種類 4級・3級・2級・1級
- 試験科目 実技と理論
- 試験時間
 - 硬筆…4級・3級 60分、2級・1級 90分
 - 毛筆…4級・3級 90分、2級 120分、1級 150分
- 検定受験料

- 特典 書写・書道教育に最適。文部大臣より優秀者の表彰。公的資格が得られ、進学、就職に有利。
- 試験地 全国主要都市および学校または団体で、20名の受験者があれば単独会場が設置できる。
- 後援—金国都道府県教育委員会
- 試験の種類と程度
 - 4級…基礎的な技術及び知識
 - 3級…一般の技術及び知識
 - 2級…専門的技術及び知識
 - 1級…高度な専門技術及び知識

■願書請求方法—宛名明記の返信小封筒(62円切手貼付)と切手200円を同封し、協会にご請求下さい。

	1 級	2 級	3 級	4 級
硬 筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛 筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

〒170 東京都豊島区南大塚3-22-11 TEL03-(3988) 3581(代)

財団法人 日本書写技能検定協会

筆

林氏
公社

入木筆

博文堂本舗

〒639-11 大和郡山市柳1の1

TEL 大和郡山 07435-2-3251(代)

FAX 07435-2-3253

書道額・和額・日本画額・洋額・別寸額・特注品・
風・衝立・軸装の製造 販売

大島

●本社／広島県甲奴郡上下町 ☎ 084762-3517(代) FAX 084762-4528

●東京営業所／東京都三鷹市下連雀1-16-5 ☎ 0422-42-3085

●福山営業所／広島県福山市新涯町2-51 ☎ 0849-54-4715(代)

日本の筆で世界に書を

伝統的工芸品熊野筆生産業者

熊野筆センター



株式会社



休園



●併設/全日本書作家錬成道場

本社/〒731-42 広島県安芸郡熊野町1879 ☎(082)854-0019(代表)

広島店/〒730 広島市中区八丁堀5-29 ☎(082)222-1919

毛筆三体帖
狩田泰山著 2200円
常用漢字と人名漢字の楷行草字
典・字体正整 大・中・小・手本に適

あけぼの帖
中村象閣著 2000円
条幅・料紙・色紙・短冊等・漢字
かな交じり文の書き方範例集

実用書式の研究
神谷墨野・風岡著 2200円
包紙や手紙・賞状・表札・目録・掲
他・正しい書式を筆とへて例示

木簡の書法
鶴木大寿著 2200円
大きな臨書手本と詳しい木簡解説
て書法を明かす 創作便利作例多

明解書道史
加藤達成・小糸本葉著 3000円
中国・日本の書を豊富に大
判図版で綴った目玉書道史

4級合格のポイント
900円
硬筆書方検定

3級合格のポイント
1100円
硬筆書方検定

1.2級合格のポイント
1700円
硬筆書方検定

日本習字普及協会
〒東京都文京区本郷3-4-5

てらこ
手良系墨液

伝統の黒に
より近い墨液

墨の精カラーフレンド墨液

200cc 250円

たのしいカラーラベルが目印です

株式会社

墨運堂

〒630 奈良市杉ヶ町39番地の1

☎ (0742) 26-5611(代)



伝統的工芸品指定 熊野筆 高級書道用筆墨硯

株式
会社

久保田 魏

本 社 広島県安芸郡熊野町7505-3 TEL 082 (854) 0009(代)

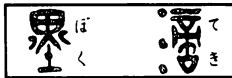
東 京 東京都台東区台東3-42-4 書道殿堂東京久保田号ビル

作品制作用から練習用まで常に良心的

伝統と技術をほこる銘墨



そのまま書ける書道用液



天衣無縫



古墨の風格
最高級液体墨

書芸吳竹



紫紺系黒
純 黒
青系黒
濃 墨

作品用書道液

株式 会社 呉竹精昇堂

〒630 奈良市南京終町5丁目576番地

東京・福岡・札幌・仙台

TEL.0742(50)2050 FAX.0742(50)2070

サン美フレーム は

作品の女房です。

作品をしっかり守り、その魅力を十二分に引き立てるフレーム。
作品の心を大切に思う気持ちが
ひとつひとつのサン美フレームにこめられています。

額縁の総合専門メーカー



株式会社 サン美術工芸

本社・工場/富山県高岡市内免4-6-33 (〒933)
Phone 0766(21)61124☎ ファックス☎0766(25)3851

習字手本と筆墨
梅雪かな帖発行

カタログ送呈

〒630

奈良市内侍原町49

電話 (0742) 23327

振替 大阪9-57988

筆乃松林

開明・古梅園製品

販売代理店

奈良 博文堂筆



株式会社 中野

代表取締役 中野 博

〒920 金沢市千木町へ15-1

TEL (0762) 58-1466(代)

FAX (0762) 58-1520

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105

TEL 43-1555

FAX 43-1783

本・学用品・事務用品・学校用品

BOOKS

スガイ

本店/TEL89-4131(代)FAX88-3799

営業時間AM9:00~PM10:00

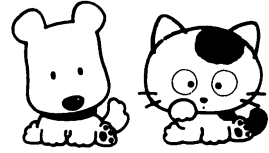
スカール店/TEL88-3173 FAX88-3860

営業時間AM10:00~PM7:00

太田店/TEL88-4110 FAX88-4510

営業時間AM10:00~PM11:00

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

石川郡美川町字新町ル114の2

TEL 0762-78-2630

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1 TEL 0761-21-3278

写真・ビデオ制作 光画社

〒920 金沢市尾張町1丁目7-8

☎金沢 0762-64-3288(代) FAX 0762-62-4537

物流の新次元を開く

BEST IN LOGISTICS PARTNER



センコー 株式会社
北陸支店

支店長 進 朗

北陸支店 金沢市広岡2丁目13番23号 電話 (0762) 24-8110 (代)

営業所 新潟・五泉・富山・金沢・福井・コンテナ(営)



MAEDA GROUP

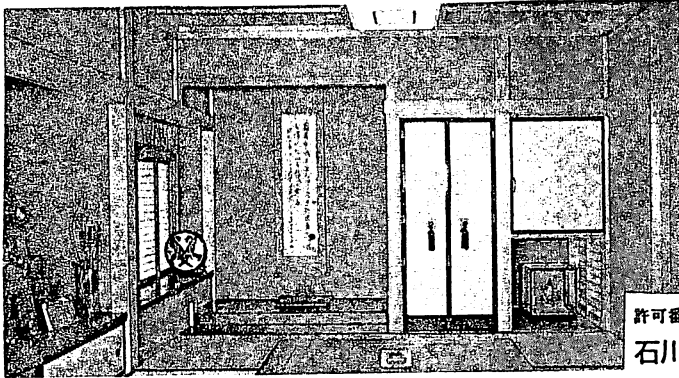
カズオ工業 (株)

- ・クレーン車各種貸付
- ・嵩工事一式
- ・鉄骨工事一式
- ・機械運搬
- ・重量物運搬
- ・山留・支保工架組工事一式

代表取締役

木下外治

〒920-03 金沢市中屋町西447-1
TEL(0762)49-1215 FAX(0762)49-6447



木を活かした自由設計の住まい。

FreeStyling

新協

許可番号 建設大臣許可(特02)第6027

石川支店 TEL.0762(57)2535

蓄積されたノウハウを生かし、明日の建築文化を創造。



株式会社

本田工務店

〒921 本社 金沢市八日市出町75番地

電話 (0762) 49-6213(代)

FAX (0762) 40-1510



星山石材株式会社

〒921 金沢市長坂3丁目12番22号

TEL (0762) 42-1644(代)

FAX (0762) 42-9493

工場 41-4034

菊川ショールーム 61-0333

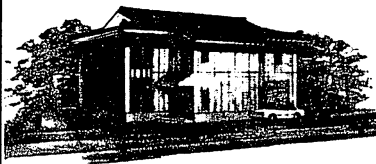
大きく打てば、大きくいびく。
 小さく打てば、小さくいびく。
 熱く打てば、熱く。
 つれなく打てば、つれなく。
 打ち手の心を自在にいびかせる。
 それが太鼓です。

打てばいびく



当店では、あらゆる大きさ、種類の太鼓を製作いたします。各種太鼓用品などの販売、さらに太鼓の出張指導、作調、振り付け、採譜まで、太鼓に関するすべてのご相談・ご注文に応じます。太鼓の里資料館では、世界各地から収集した50余点の太鼓、打楽器を常設展示しております。また、浅野太鼓敷地内に、1990年9月新築された「太鼓の里新響館」は、打ち手の方々が待望していた太鼓練習道場です。防音完備。3尺以上の大太鼓の練習ができます。合宿可（男20人、女20人）。

四百年の伝統技術を受け継ぐ浅野太鼓店は、太鼓づくりだけではなく、太鼓に関する様々の情報を集め、多くの人たちとの交流をはかりながら、太鼓文化の興行きを、みなさんに伝えていきたいと考えています。



浅野 太鼓の練習場
太鼓の里
新響館



浅野 世界の太鼓
太鼓の里
資料館

商標登録
太鼓の里



株式会社

浅野太鼓

浅野太鼓祭司株式会社

◎本社 〒924松任市福留町146 TEL (0762) 77-1277 FAX (0762) 77-2228

福正宗

萬歳樂

日榮

サッポロ〈生〉黒ラベル

Asahi アサヒビール

キリンビール

サントリー〔モルツ〕



まごころのがよう店

和洋酒・ビール・たばこ
塩・調味料・清涼飲料水

酒の林屋

〒921 金沢市米泉町4丁目25-1

☎ (0762) 41-5091

FAX (0762) 41-0298

㊦ 第2回石川県書写書道教育研究大会
— 国内150支店、海外9支店のネットワーク —

日本の旅… トップツア

世界の旅… TOP TOUR



贈ります、あなたの心にのこる旅

東急観光

金沢支店 金沢市片町2丁目1-1

TEL 0762-22-0109

田 辺 印 刷

田 辺 商 店

金沢市石引4丁目1番6号

TEL (0762) 31-5697

カラープリント特急仕上げ！ 1時間仕上げ可能です。
カラープリント・証明写真
大切な写真だから……

写真の **ミヤノ**

河北郡津幡町津幡ハ96-1

・津幡本店 ☎89-4181 ・金沢新神田店 ☎91-8022
・ハロータウン
モリモト店 ☎57-3780 ・スカール店 ☎88-3187

全 国
菓子博

名誉大賞受賞

エム 遊仙華 八っ房の梅 俱利伽羅山 不動も赤か

御進物に
お茶のひとときに
御愛用下さい

小泉菓子舗

津幡町 TEL 89-2637

レストラン部
仕出し部

【宴会場完備】



和風レストラン

おぎん

〒921 石川郡野々市町粟田1丁目263 ☎(0762) 48-0564 (代)
48-0563
46-4748



コンビニエンス・ストア
Rabbit Foot

津幡店／河北郡津幡町浅田丙48-1 TEL(0762)89-4612

宇ノ気店／河北郡宇ノ気町内日角中12 TEL(0762)83-5302

金沢の冬を贈る。
吟醸生貯蔵酒

冬きさら



冬きさら
吟醸生貯蔵酒

美しい雪の古都、金沢に生まれ
た冬きさら三題。「雪もよう」
「雪しずか」「雪やどり」。その新
鮮な吟醸香旨さも、吟醸生貯
蔵酒ゆえに……。今、美しい冬
にきらめく夢をまします。

加賀菊酒の本流。



中村酒造株式会社

加賀の菊酒 萬歳樂

株式会社 小堀酒造店

〒920-21 石川県鶴来町本町1丁目

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書の教育図書・教材
- 毎日の学習教材「はつらつ」

北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4

☎ (0762) 32-2425(代)

教材・教具・OA機器・その他

(有)夕力セ教材

小松市錦町28番地

TEL (0761) 21-2186

FAX (0761) 21-4868

北陸の文化とともに
115年

知性と情操をおとどける
うつのみや
金沢・片町本店/Tel. 21-6136 (代)

ゆたかな知性のオアシス

書林

KOHRINBO I(X) 本店 ☎(0762) 20-5011

駅西店 ☎31-2822 城北店 ☎52-1461
 大額店 ☎96-0230 野々市店 ☎46-5001
 森本店 ☎57-5851 小松店 ☎(0761) 21-7738

外 商 部: MRO別館 ☎33-3711

参考書 心理検査 教材

株式会社

布村教材社

金沢市小坂町中 35-4
TEL (0762) 51-1702

日本画・洋画

壁襖
貼製
工作
事部

屏額掛
風装軸

美術部

岡田錦成堂

安江町13段辰屋小路 T. 金沢21-3658

良書を普及し続けて30年

株式会社 ほるぷ 金沢支店

〒920 金沢市北安江373の2 (信開北安江ビル2階)
☎0762 (63) 5271

学校生協指定

原 裳

〒921 金沢市米泉町9丁目26番地2
☎0762 (41) 8305~6

“沖縄”

小松発 56,900円より



金沢営業所

〒920 石川県金沢市高岡町1-45
(大同生命ビル1F)
☎0762 (31)0190 (代)

鳩サクラ学生衣料北陸発売元
スワンシャツ北陸地区代理店

学生総合衣料・カジュアルウェアー

石川ユニホーム株式会社

〒920 金沢市京町34番8号
TEL (0762) 52-5231 (代)
FAX (0762) 52-5233

いい視力、いつまでも



メガネ・コンタクトレンズ・補聴器

光学堂

KOGAKUDO

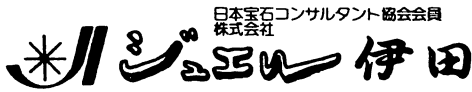
- 片町店/金沢市片町1-4-14(ラプロ向かい) TEL31-3347代
- 中央店/金沢市池田町3-39(屢川大通り) TEL22-3522代
- クリア店/金沢区片町2-2-11(金信向かい) TEL23-2711代
- 野々市店/野々市町(ジャスコ2F) …………… TEL46-5365

東井印刷所

☎ 0762-91-5890
FAX0762-91-8626
金沢市高畠1-214

石川県学校生活協同組合指定店

宝石・時計・メガネ・ゴルフ用品
金沢宝石鑑別センター



本店 / 金沢市彦三町2-3-11 〒920
☎ <0762>24-7162(代) FAX <0762>21-3409

堅町店 / 金沢市堅町48(パティオ2F) 〒920 TEL (0762) 22-8842(代)

野球用品専門。スポーツ用品全般

辻野スポーツ

金沢・安江町アーケード街
TEL 63-7777(代)

創業嘉永二年

〒921 金沢市野町三丁目一番十八号
電話 (0762) 41-2854

永江建具製作所

鹿島郡田鶴浜町字田鶴浜
TEL 0767-68-2299
FAX 0762-68-2127
金沢営業所
金沢市松島3の6和弘ビル303号
TEL 0762-69-1500

世界を沸かせた凄いガソリン
「フオーミュラシエルスーパーX」

昭和シェル石油株式会社特約店

株式会社 **丸新**

金沢市新神田5丁目1番地 TEL 92-1571(代)

あなたの街のあなたのお店

(有) 中山電気商会

金沢市米泉町7丁目61-3
TEL 43-3939
FAX 43-3983



天徳院門前

・尼寺で食べる

・庵ば 庵じかん

しょうりゅうあん

禅味齋苑

金沢市小立野四丁目二番三号 TEL (0762) 61-4321

—あなたの健康相談室—

漢方薬 民間薬 **ながえ薬局**

七尾市川原町市役所前通り

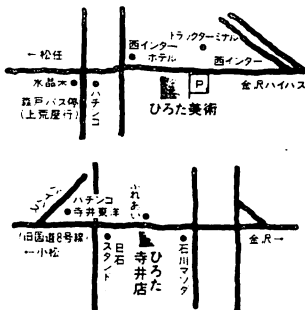
☎ 0767-53-5203



心に潤いを与えてくれます 墨の世界 掛軸にしてみませんか

お急ぎなら掛軸仕上り—10日間
品質は表具1級技能士が保障

※個展、グループ展の時には、
ご相談下さい。



ART & HEART
ひろた美術

金沢西 金沢市森戸1丁目103
インター店 ☎(0762)40-0007代 FAX(0762)40-0076
寺井店 能美郡寺井町小長野45-1
表具工房 ☎(0761)57-3210代 FAX(0761)57-3058
営業時間 AM9:00~PM7:00 木曜定休日

とどけ、心のメッセージ

私たちは、印刷に
創造性、文化性そして社会性を求めつづけます。

— 次代へ心の遺産を／最新の当社出版 —
 去年の水着、去年の映画 陶彩九谷・革新の系譜
 山崎浩治著 ●定価 1,500円 松屋菊三郎・松本佐平・松本佐太郎
 松本佐一にみる九谷陶磁史
 田中喜男著 ●定価 9,500円



新しい時代へ、新しい発想——

能登印刷株式会社

本社●金沢市武蔵町7番14号 ☎(0762)33-2550 FAX(0762)33-2559

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もろやろん

さん
筆
こう
文

株式会社 賛交社

本社 京・山科区勸修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390
三条店 京・中京区高倉通三条上ル ☎075(255)0054
京都文化博物館ろうじ店舗

伝統・創造・高品位。

今、ハイアメニティスクールのスタート!

設 置 学 科

大 学 コ ー ス → 法 学 商 経 学 科 (4 年 制)
短 大 コ ー ス → 短 大 商 経 科 (2 年 制)
医 療 コ ー ス → 医 療 秘 書 科 (2 年 制) ・ 医 療 事 務 科 (1 年 制)
情 報 コ ー ス → 情 報 処 理 科 (2 年 制) ・ O A イ ン ス ト ラ ク タ ー 科 (2 年 制)
ツ ー リ ス ト コ ー ス → 国 際 観 光 科 (2 年 制) ・ 観 光 ト ラ ベ ル 科 (1 年 制)

専門 日本ビジネススクール金沢
学校

〒920 金沢市尾張町1-2-8 TEL 0762 (22) 0380

祝 第2回石川県書写書道教育研究大会

廣 告 看 板 一 般

有限会社 アサダ・デザイン看板

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL48-2367(代)

※見習い生、従業員募集

オフィスコンピューター・ファクシミリ・ワープロ・複写機
事務用品・製図用品・ゴム印・印刷物一般

株式会社 甲陽事務機

〒921 石川郡野々市町住吉町9番28号
TEL (0762) 48-3093(代)
FAX (0762) 48-3094

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
TEL 075 (812) 3318

『一客一亭の心』活魚会席・各種定食・仕出し
御家族連れて楽しいお食事を……

割烹 みや川

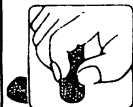
◎当店自慢の「スッポン料理」も一度ご賞味下さい
金沢市額新保1丁目431 ☎98-2225

旅 & 宿 〈旅行業登録石第82号〉
の相談とお申込みは…
新しい旅の企画と楽しい旅行を演出する!!

(株) 新日本ツーリスト

野々市町本町1丁目 ☎48-1455
(2丁目1番街向)
金沢営業所 ☎(0762)42-2455 加賀営業所 ☎(07617)4-1280

♥大切だから愛彫り……



観広堂廣瀬印房

金沢兼六園下 ☎22-2441(代)・FAX22-3306
創業明治7年・金沢老舗百年会々員

美味しい時間、
過ごしましょっ!

大小宴会御承ります

洋食 ズイウ

TEL 48-1360 火曜定休日